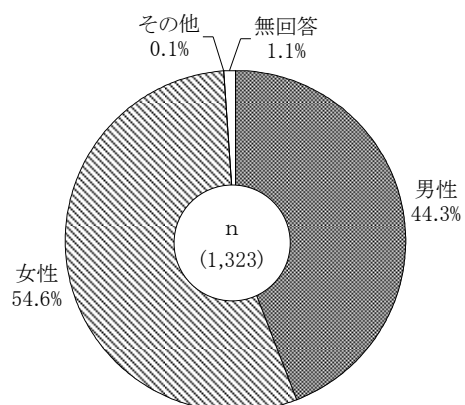


第2章 調査結果の詳細

基本属性

(1) 性別

	基数	構成比
全体	1,323	100.0%
男性	586	44.3%
女性	722	54.6%
その他	1	0.1%
無回答	14	1.1%



(2) 年齢

	基数	構成比
全体	1,323	100.0%
19歳以下	16	1.2%
20～29歳	71	5.4%
30～39歳	165	12.5%
40～49歳	235	17.8%
50～59歳	231	17.5%
60～69歳	284	21.5%
70～79歳	217	16.4%
80歳以上	94	7.1%
無回答	10	0.8%

(3) 職業

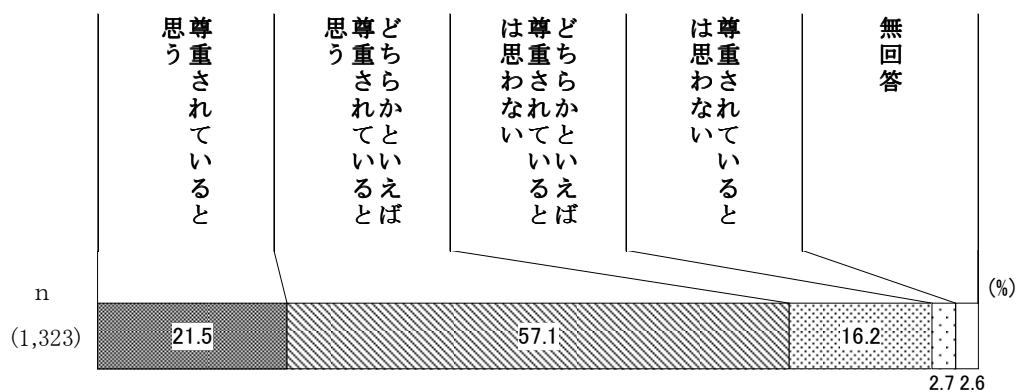
	基数	構成比
全体	1,323	100.0%
会社員・公務員など	393	29.7%
パート・アルバイト・契約社員など	207	15.6%
自営業・個人業	90	6.8%
家事専業	268	20.3%
学生	31	2.3%
その他の職業	27	2.0%
仕事はしていない	290	21.9%
無回答	17	1.3%

1. 人権についての意識・考え

(1) 基本的人権の尊重

Q1 あなたは、身近な社会で「基本的人権」が尊重されていると思いますか。(該当するものの1つに「○」)

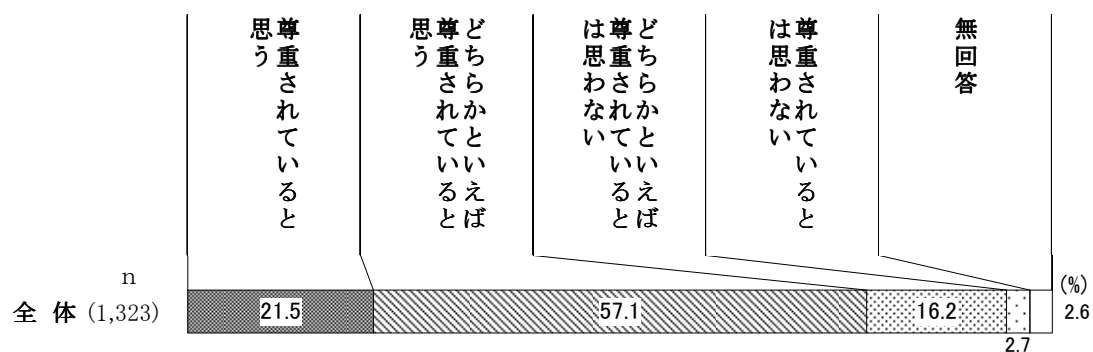
基本的人権が尊重されているか尋ねたところ、<尊重されていると思う>（「尊重されている」と「どちらかといえば尊重されていると思う」の合計）は、78.6%となっている。



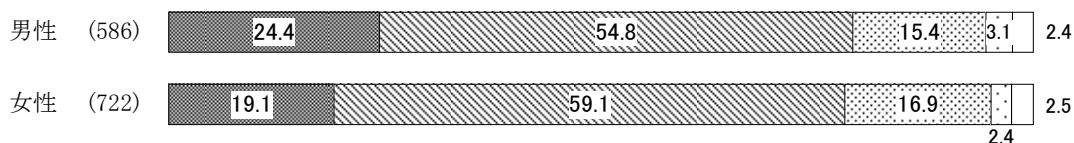
【性別・年代別】

性別では、「尊重されていると思う」は、男性（24.4%）のほうが女性（19.1%）より高くなっている。

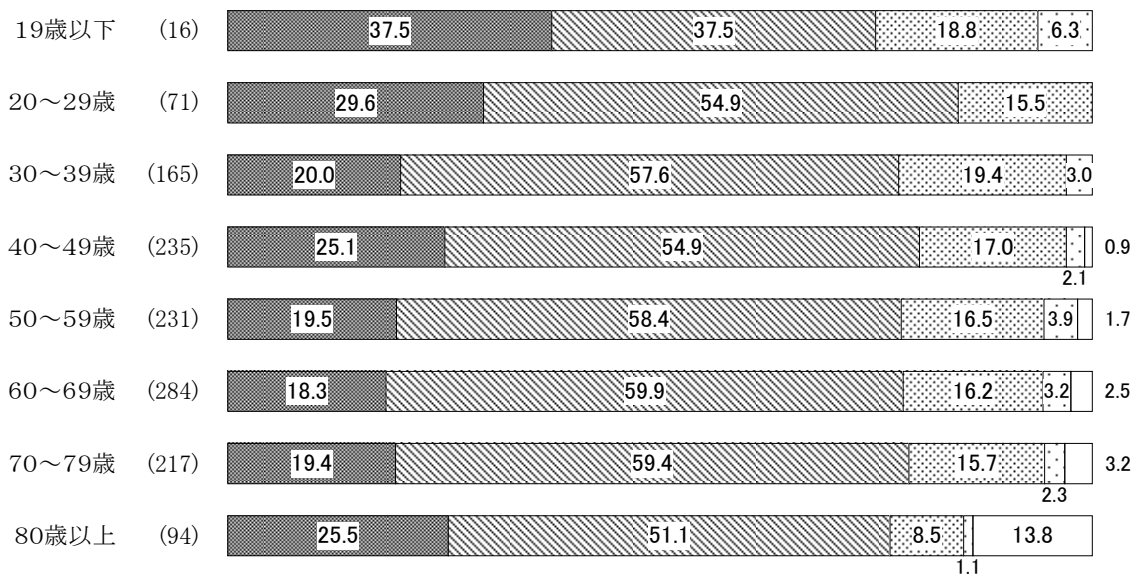
年代別では、「尊重されていると思う」は、20～29歳（29.6%）で約3割と高くなっている。



【性別】



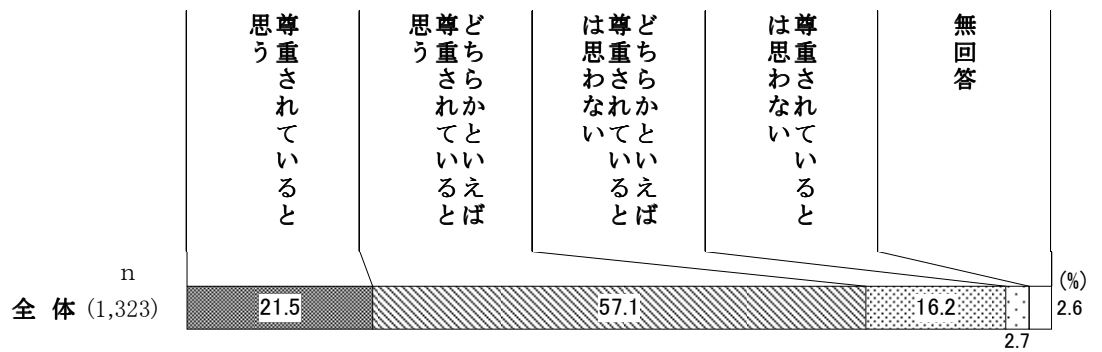
【年代別】



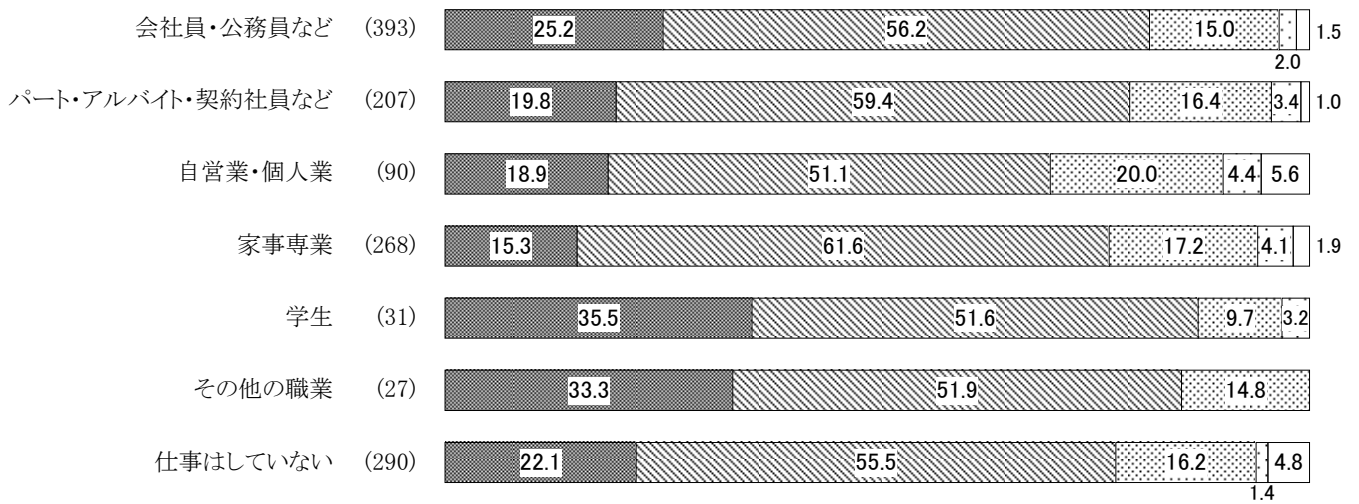
第2章 調査結果の詳細

【職業別】

職業別では、「尊重されていると思う」は、学生（35.5%）で3割台半ばと最も高くなっている。



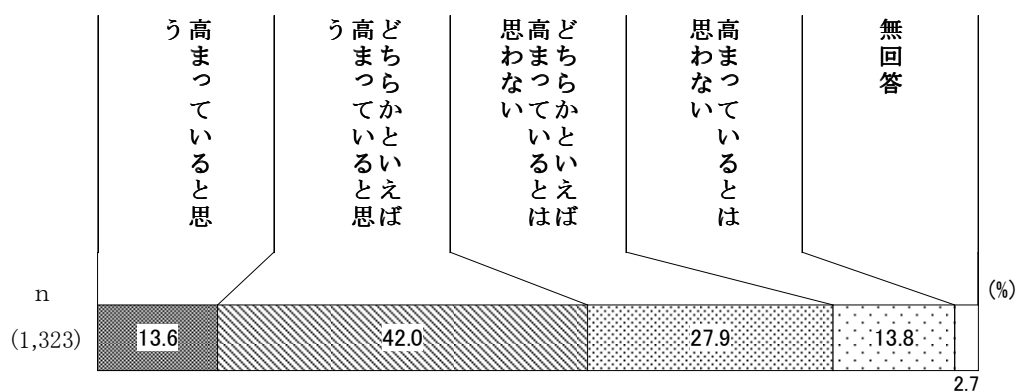
【職業】



(2) 人権意識の高まり

Q2 あなたは、身近な社会で5～6年前に比べ人権意識が高まっていると思いますか。(該当するもの1つに「○」)

5～6年前に比べ人権意識が高まっているか尋ねたところ、<高まっていると思う>（「高まっていると思う」と「どちらかといえば高まっていると思う」の合計）は、55.6%となっている。

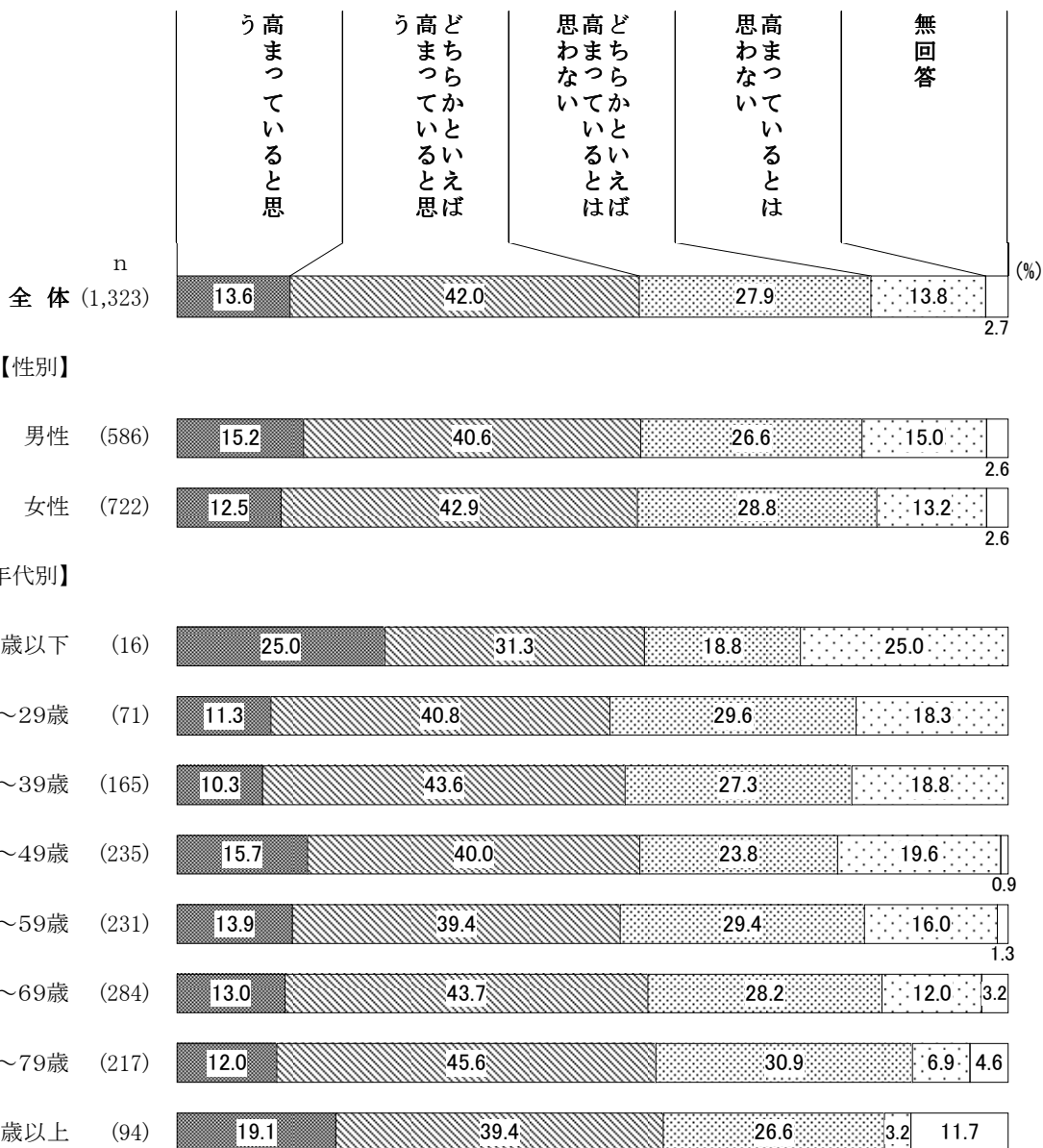


第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

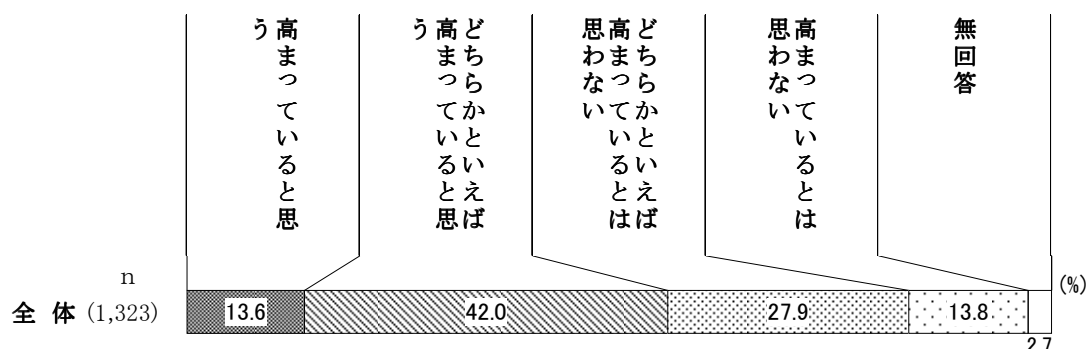
性別では、あまり大きな違いはみられない

年代別では、「高まっていると思う」は、80歳以上（19.1%）で約2割と他の年代に比べて高くなっている。

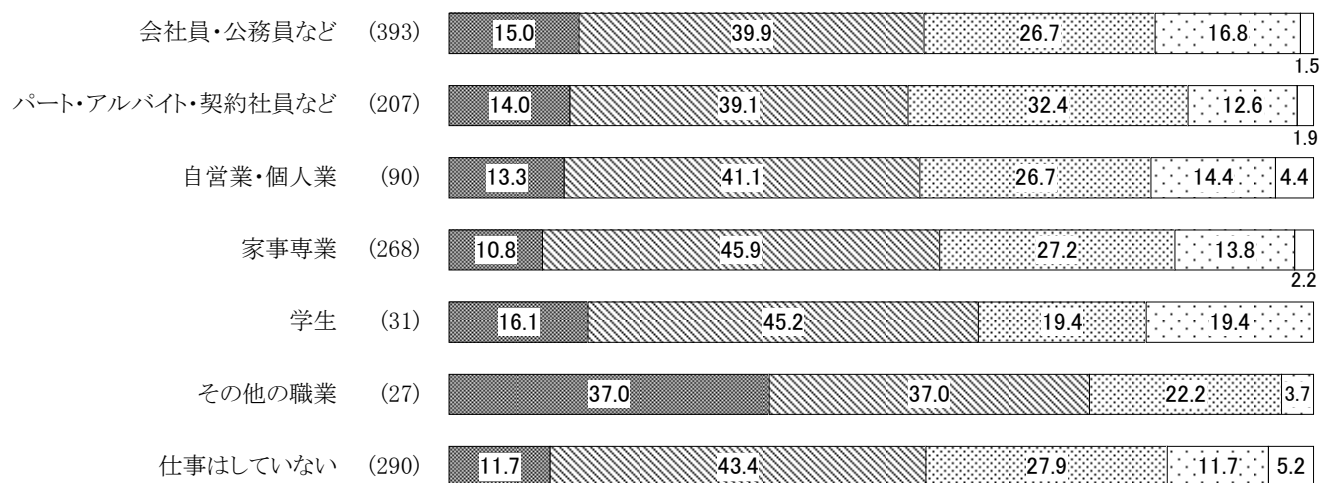


【職業別】

職業別では、顕著な差は見られないが、「高まっていると思う」は他の職業と比べて、家事専業(10.8%)で最も低くなっている。



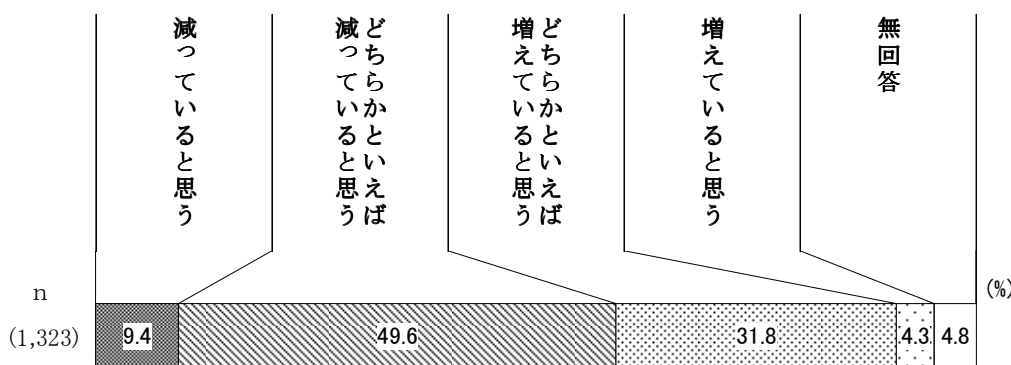
【職業】



(3) 人権侵害の現状

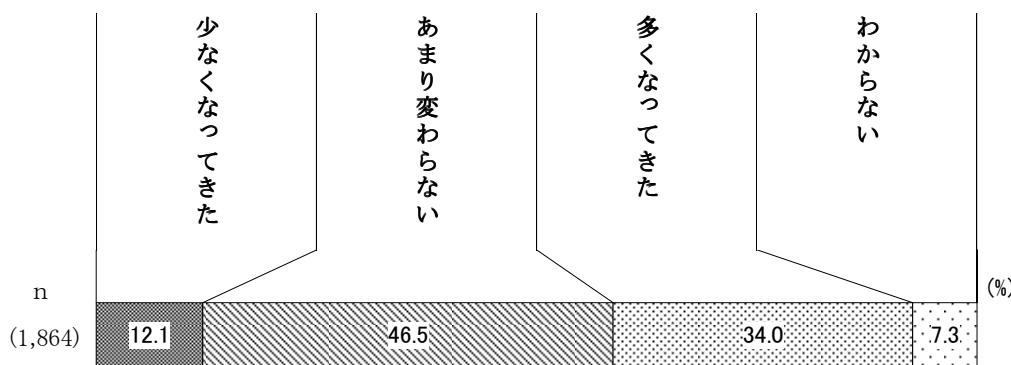
Q3 あなたは、身近な社会で5～6年前に比べ人権が侵害されることが減っていると思いますか。(該当するもの1つに「○」)

5～6年前に比べ人権が侵害されることが減っているか尋ねたところ、<減っていると思う>（「減っていると思う」と「どちらかといえば減っていると思う」の合計）は、59.0%となっている。



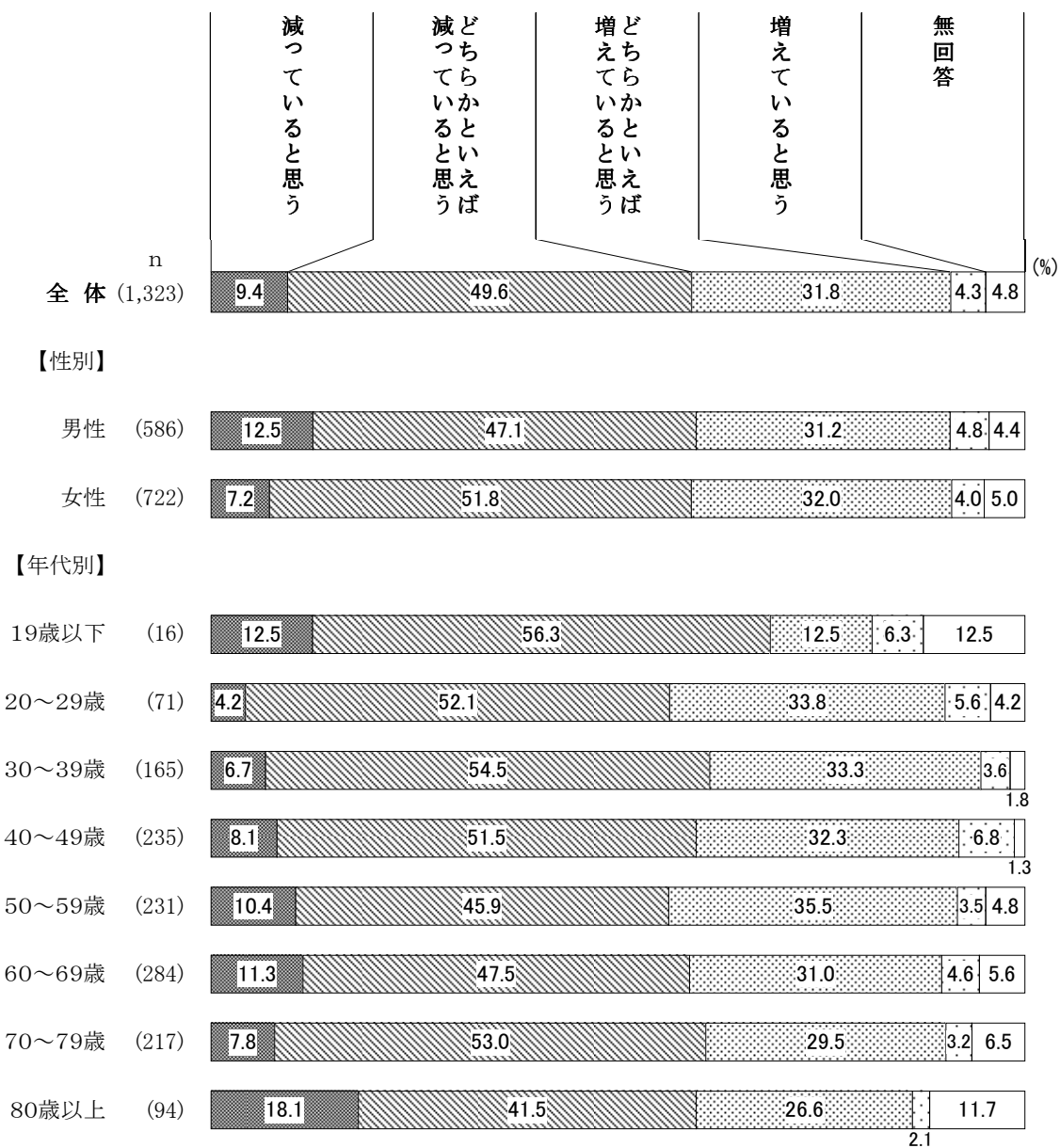
参考 内閣府 人権侵害の推移

内閣府調査における人権侵害の推移では、「少なくなってきた」が12.1%、「あまり変わらない」が46.5%、「多くなってきた」が34.0%となっている。



【性別・年代別】

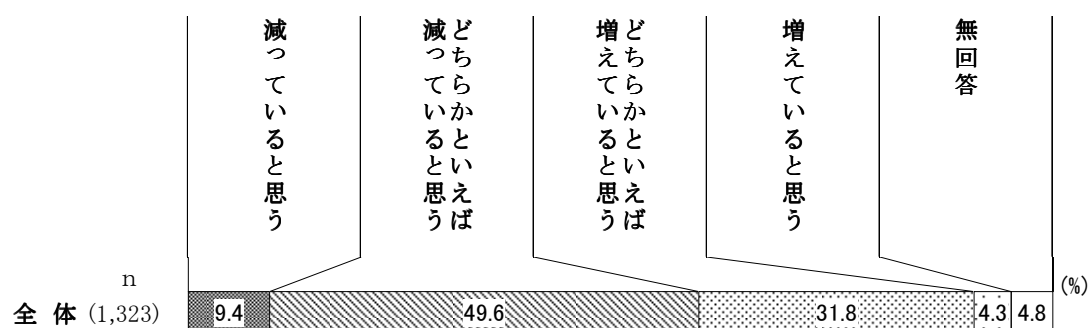
性別では、「減っていると思う」は、男性（12.5%）のほうが女性（7.2%）より高くなっている。
 年代別では、「減っていると思う」は、80歳以上（18.1%）で他の年代に比べて高くなっている。



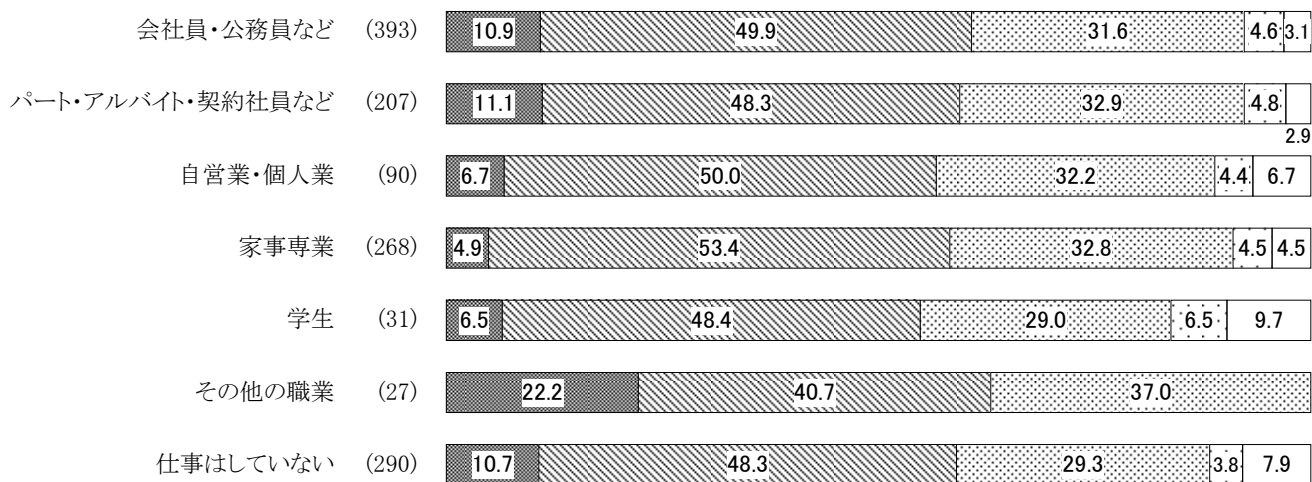
第2章 調査結果の詳細

【職業別】

職業別では、「減っていると思う」は、家事専業（4.9%）で最も低くなっている。



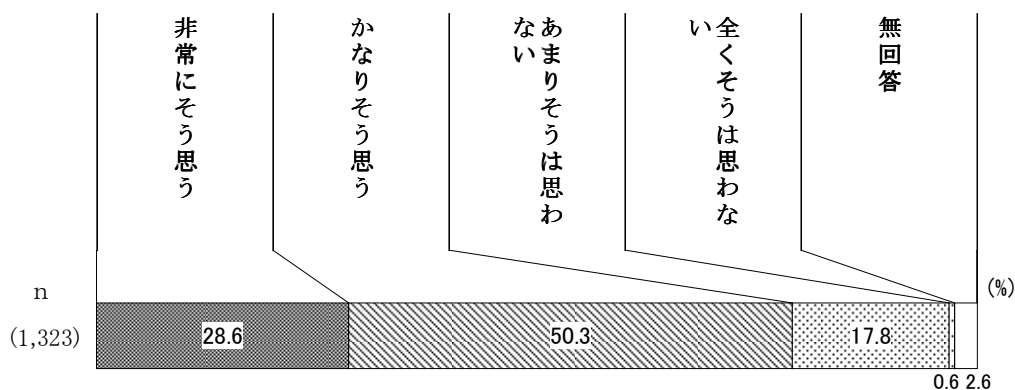
【職業】



(4) 他人の迷惑を考えずに権利のみを主張する人の増加

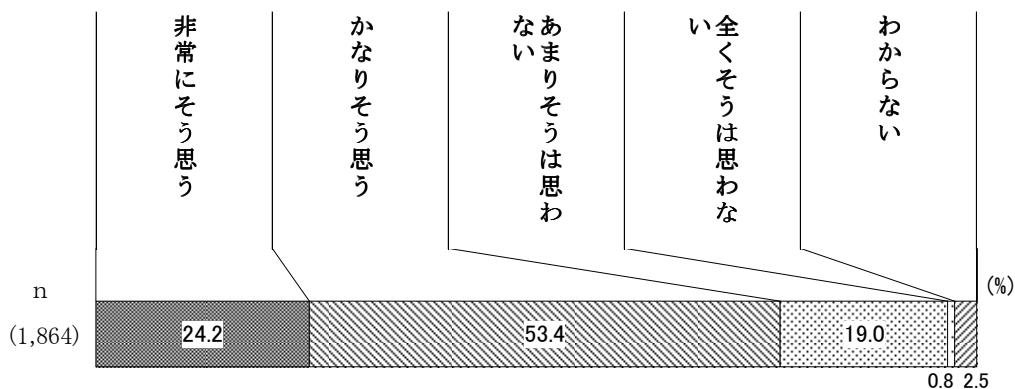
Q 4 「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた」という意見について、あなたは、どう思いますか。(該当するもの1つに「○」)

「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた」という意見について尋ねたところ、<そう思う>（「非常にそう思う」と「かなりそう思う」の合計）は、78.9%となっている。



参考 内閣府 人権尊重と権利の主張による他人への迷惑について

内閣府調査における人権尊重と権利の主張による他人への迷惑については、<そう思う>（「非常にそう思う」と「かなりそう思う」の合計）は、77.6%となっている。

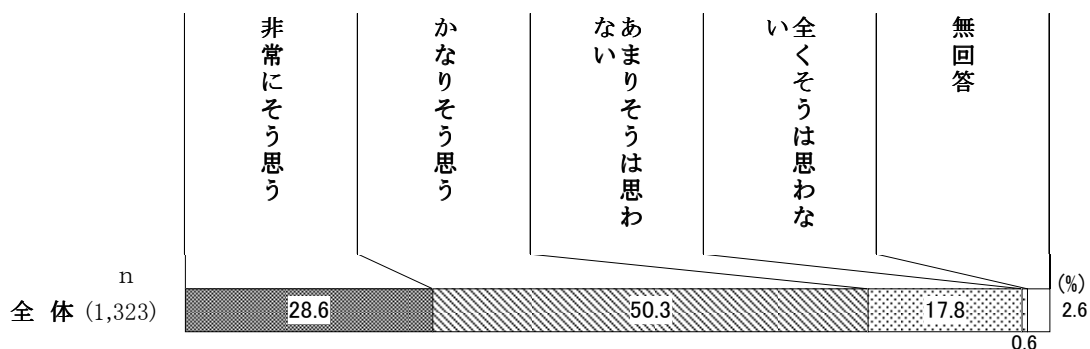


第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、あまり大きな違いはみられない

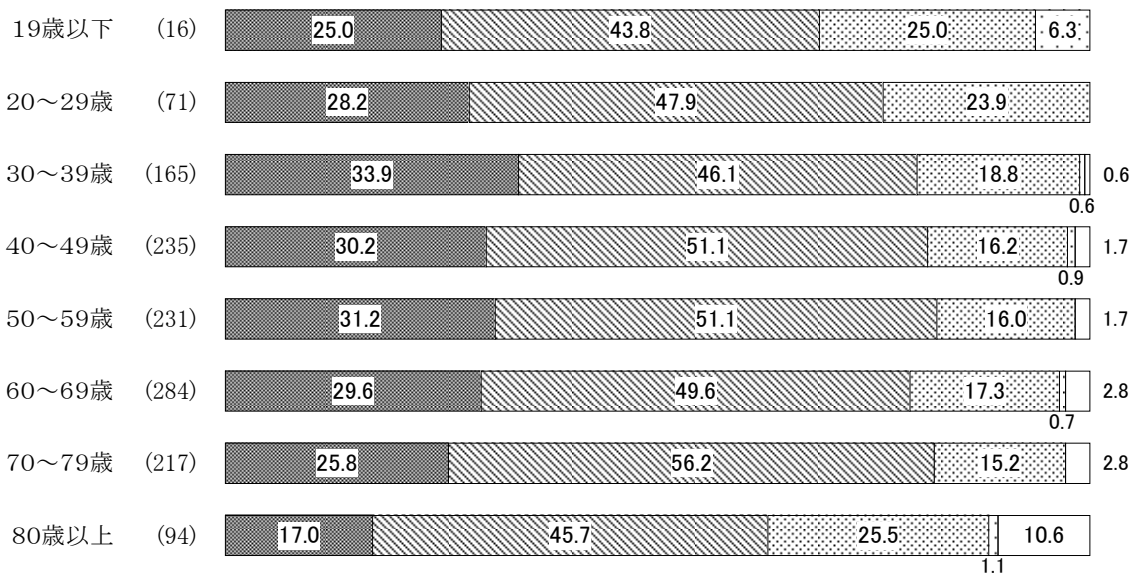
年代別では、＜そう思う＞（「非常にそう思う」と「かなりそう思う」の合計）は、80歳以上（62.7%）で他の年代に比べて低くなっている。



【性別】

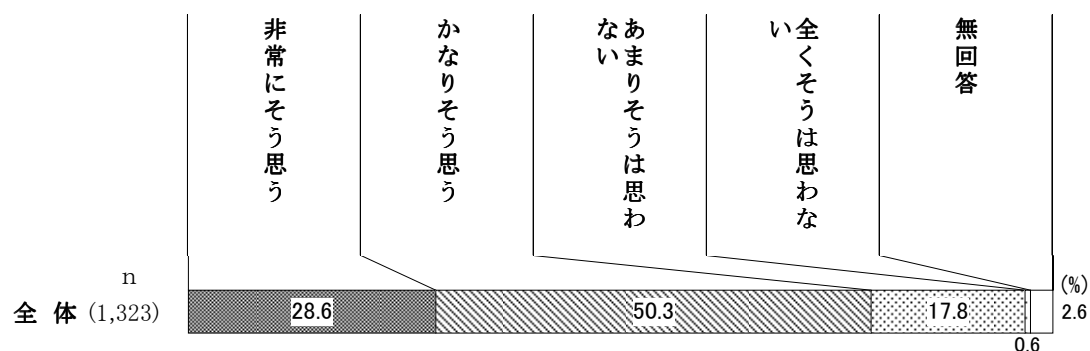


【年代別】

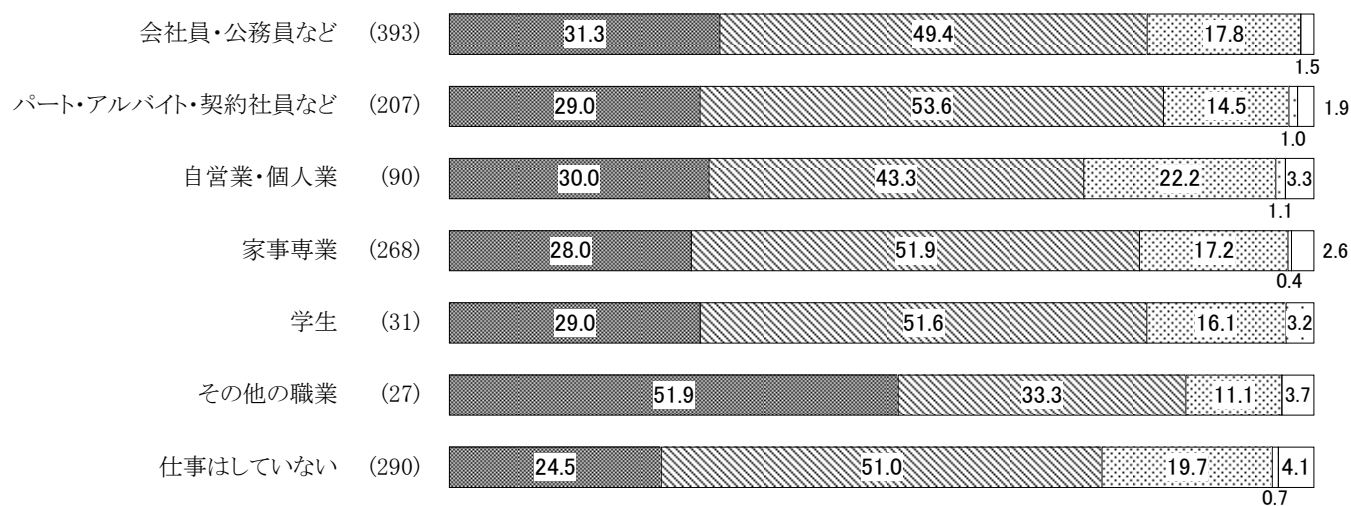


【職業別】

職業別では、＜そう思う＞（「非常にそう思う」と「かなりそう思う」の合計）は、自営業・個人業（73.3%）で他の職業に比べて低くなっている。



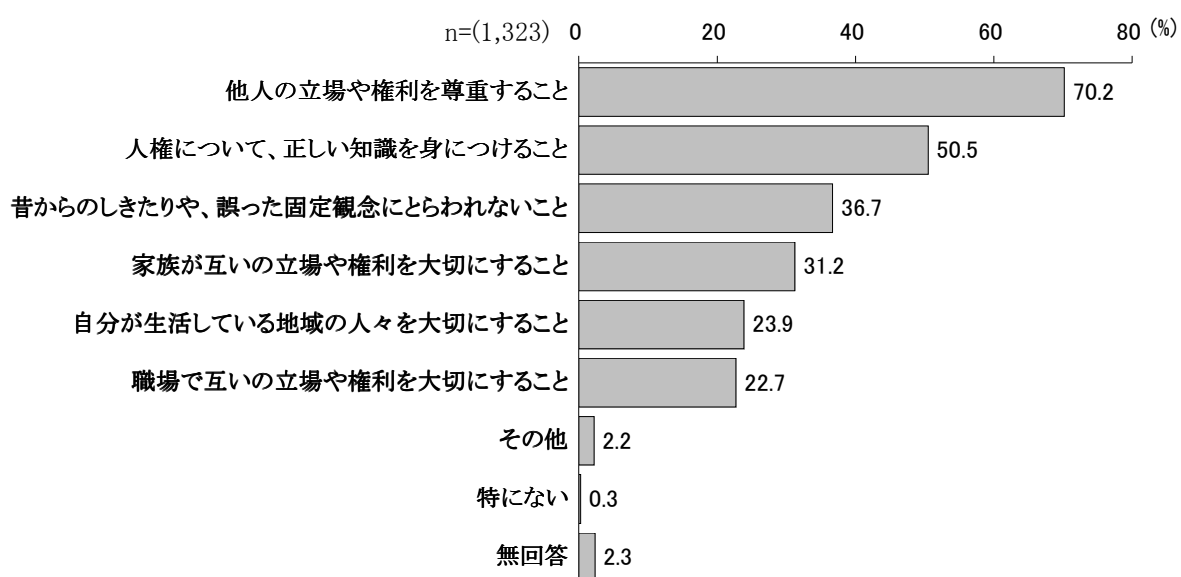
【職業】



(5) 人権尊重のために心がけるべきこと

Q5 あなたは、お互いの違いを認め人権を尊重しあうためには、特に、どのようなことを心がけたらよいと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

人権尊重のために心がけるべきことは、「他人の立場や権利を尊重すること」が70.2%で最も高く、次いで「人権について、正しい知識を身につけること」が50.5%、「昔からのしきたりや、誤った固定観念にとらわれないこと」が36.7%などとなっている。



【性別・年代別・職業別】

性別では、「家族が互いの立場や権利を大切にすること」は、女性（34.5%）のほうが男性（27.6%）より6.9ポイント高くなっている。

年代別では、「昔からのしきたりや、誤った固定観念にとらわれないこと」は、20～29歳（49.3%）で約5割と最も高くなっており、「職場で互いの立場や権利を大切にすること」でも20～29歳（38.0%）で最も高くなっている。

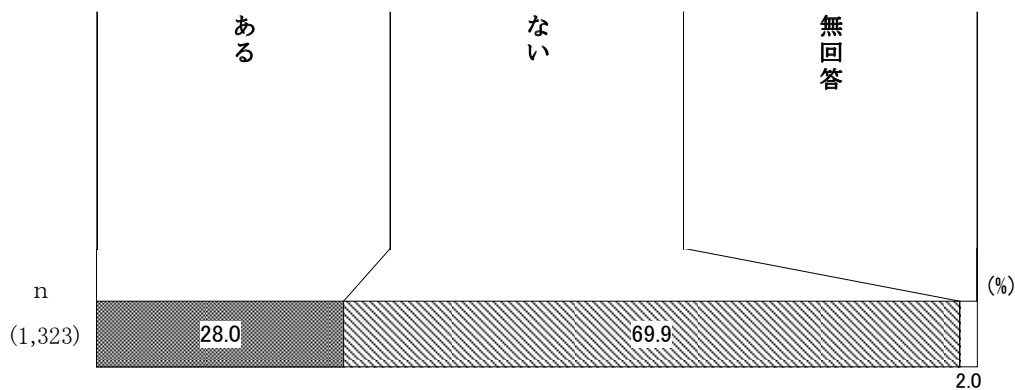
職業別では、「家族が互いの立場や権利を大切にすること」は、家事専業（41.0%）で最も高くなっており、学生（9.7%）で最も低くなっている。

	調査数	他人の立場や権利を尊重すること	人権について、正しい知識を身につけること	昔からのしきたりや、誤った固定観念にとらわれないこと	家族が互いの立場や権利を大切にすること	自分が生活している地域の人々を大切にすること	職場で互いの立場や権利を大切にすること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	70.2	50.5	36.7	31.2	23.9	22.7	2.2	0.3	2.3
性別										
男性	586	69.3	51.2	35.0	27.6	22.4	20.5	1.5	0.5	2.4
女性	722	71.2	50.1	38.0	34.5	25.1	24.7	2.8	0.1	1.9
年齢別										
19歳以下	16	81.3	43.8	37.5	6.3	18.8	25.0	-	-	-
20～29歳	71	74.6	47.9	49.3	22.5	11.3	38.0	2.8	-	-
30～39歳	165	69.7	44.8	39.4	25.5	23.0	29.7	2.4	-	1.8
40～49歳	235	69.8	52.8	41.3	27.7	18.7	28.5	4.3	0.4	1.3
50～59歳	231	72.3	56.3	43.3	30.7	15.6	26.4	2.6	-	0.9
60～69歳	284	73.9	53.2	28.9	38.7	26.4	21.5	0.7	1.1	1.8
70～79歳	217	68.7	48.4	30.0	35.5	35.5	10.6	2.3	-	2.3
80歳以上	94	56.4	41.5	33.0	30.9	33.0	6.4	-	-	11.7
職業										
会社員・公務員など	393	70.0	53.7	39.4	24.7	17.3	30.3	2.3	0.3	1.0
パート・アルバイト・契約社員など	207	71.0	49.3	36.2	35.7	17.9	36.2	4.3	-	1.9
自営業・個人業	90	70.0	46.7	40.0	23.3	23.3	15.6	1.1	1.1	4.4
家事専業	268	71.3	50.7	38.1	41.0	30.6	19.0	1.5	-	1.9
学生	31	80.6	41.9	45.2	9.7	9.7	25.8	6.5	-	-
その他の職業	27	74.1	55.6	37.0	22.2	33.3	11.1	-	-	-
仕事はしていない	290	68.3	49.3	29.7	33.1	31.0	9.3	1.4	0.7	4.1

(6) 自分の人権侵害

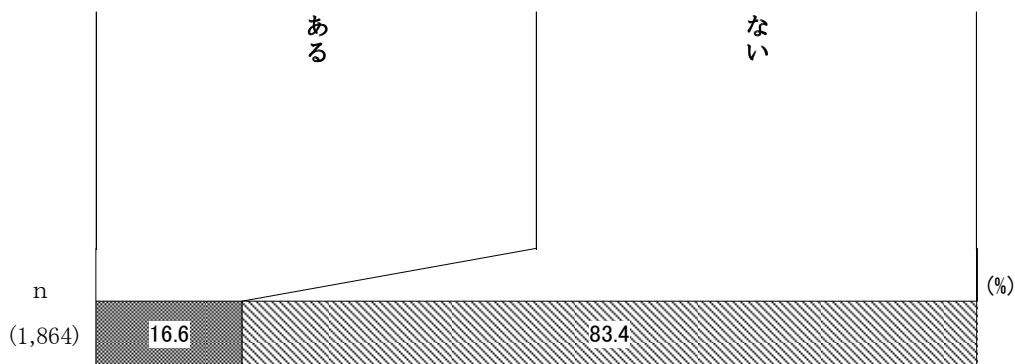
Q6 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思っただことがありますか。

自分の人権が侵害されたか尋ねたところ、「ある」は、28.0%となっている。



参考 内閣府 人権侵害の経験

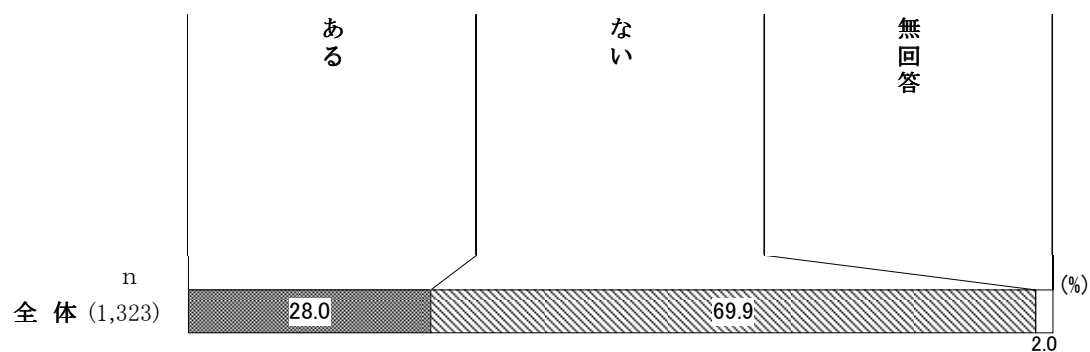
内閣府調査における人権侵害の経験では、「ある」は、16.6%となっている。
藤沢市と比較すると、「ある」は藤沢市のほうが11.4ポイント高くなっている。



【性別・年代別】

性別では、「ある」は、女性（30.5%）のほうが男性（25.4%）より高くなっている。

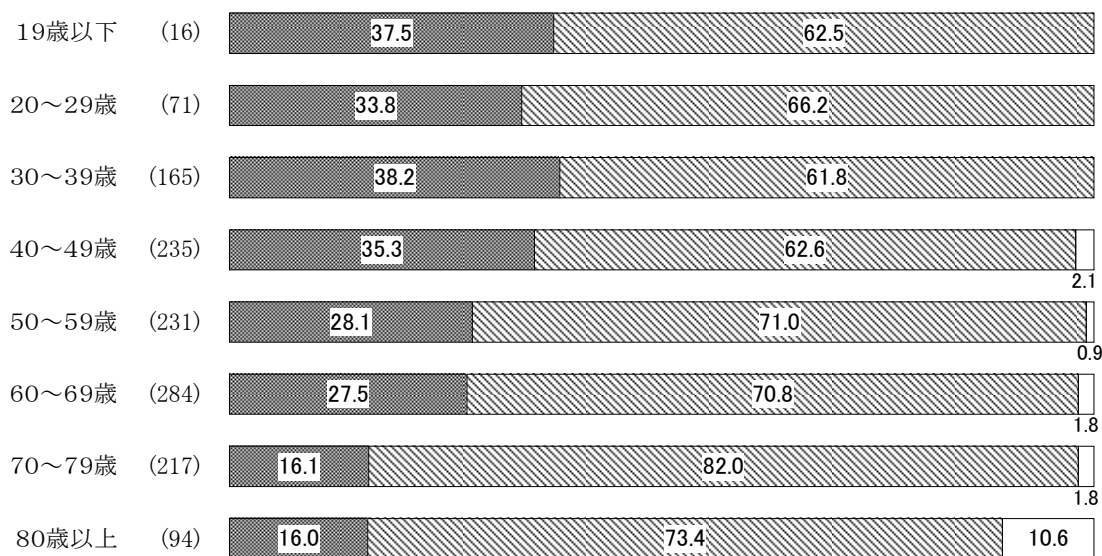
年代別では、「ある」は、30～39歳（38.2%）で最も高く、それ以降は年代が上がるにつれて低くなっている。



【性別】



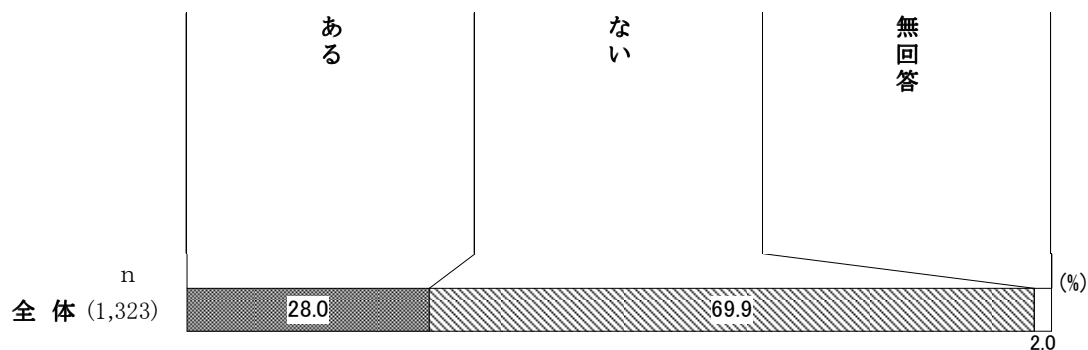
【年代別】



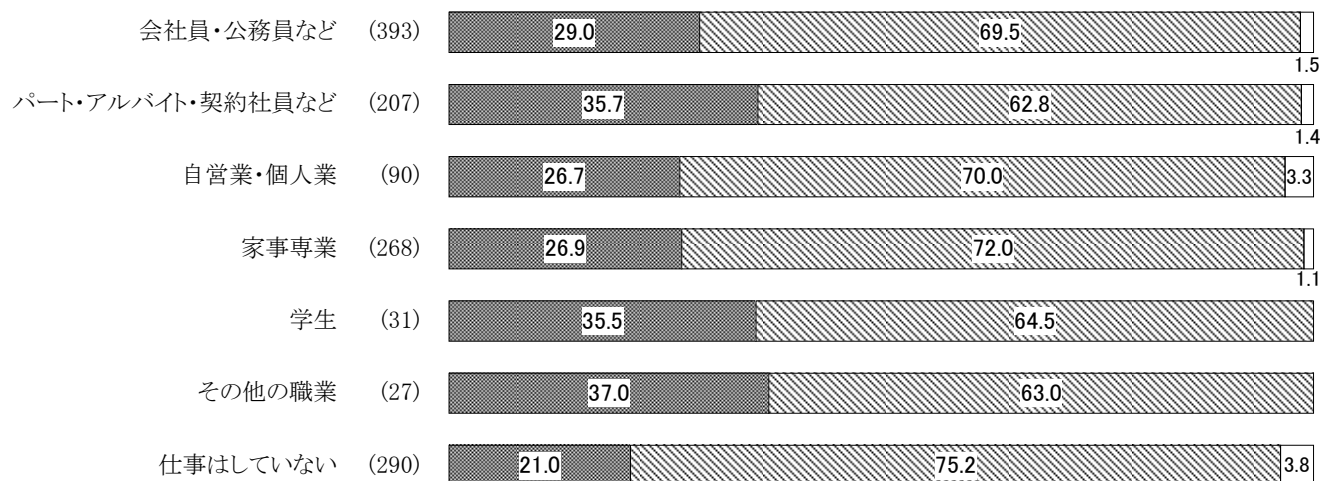
第2章 調査結果の詳細

【職業別】

職業別では、「ある」は、パート・アルバイト・契約社員など（35.7%）、学生（35.5%）で3割台半ばと他の職業に比べて高くなっている。



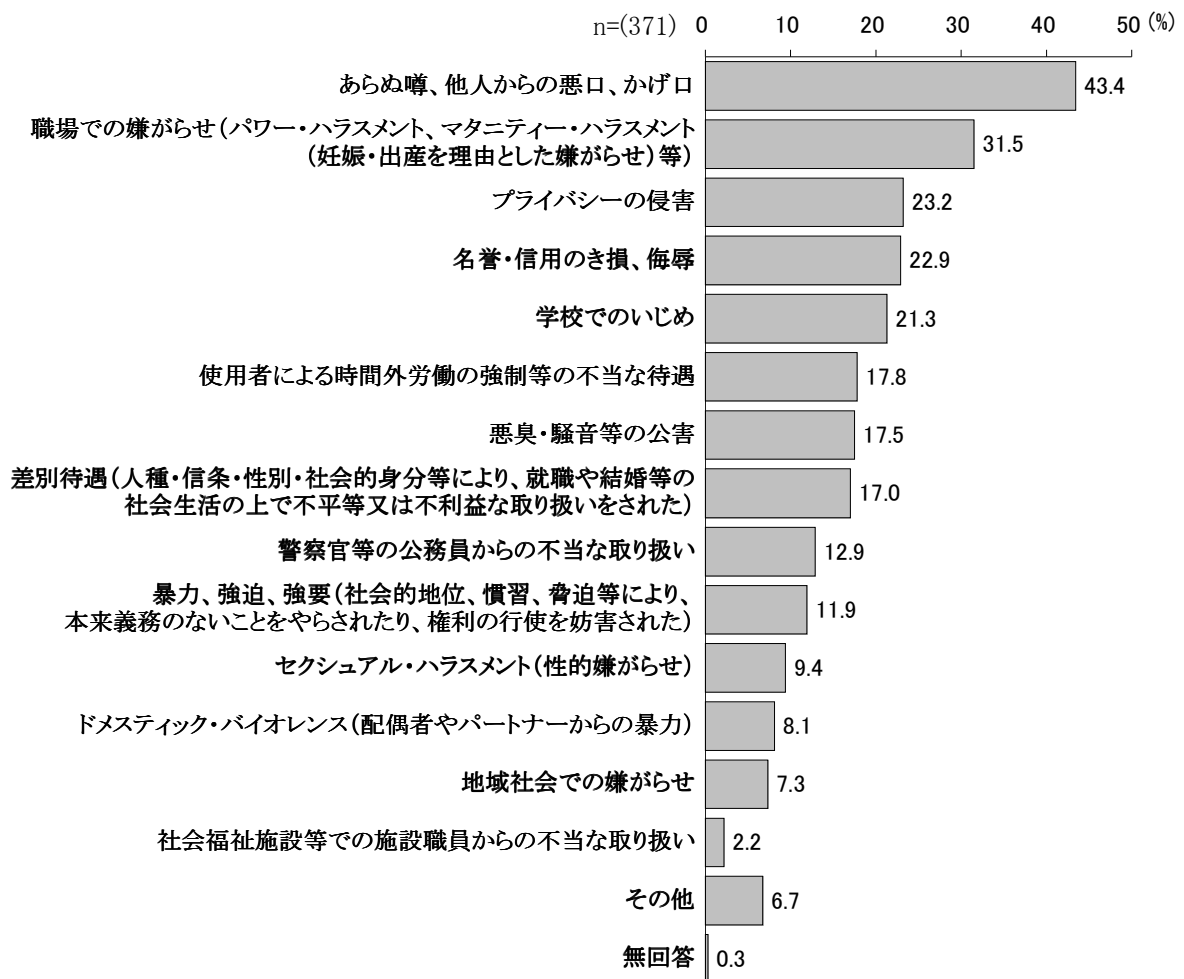
【職業】



(7) 自己的人権侵害の内容

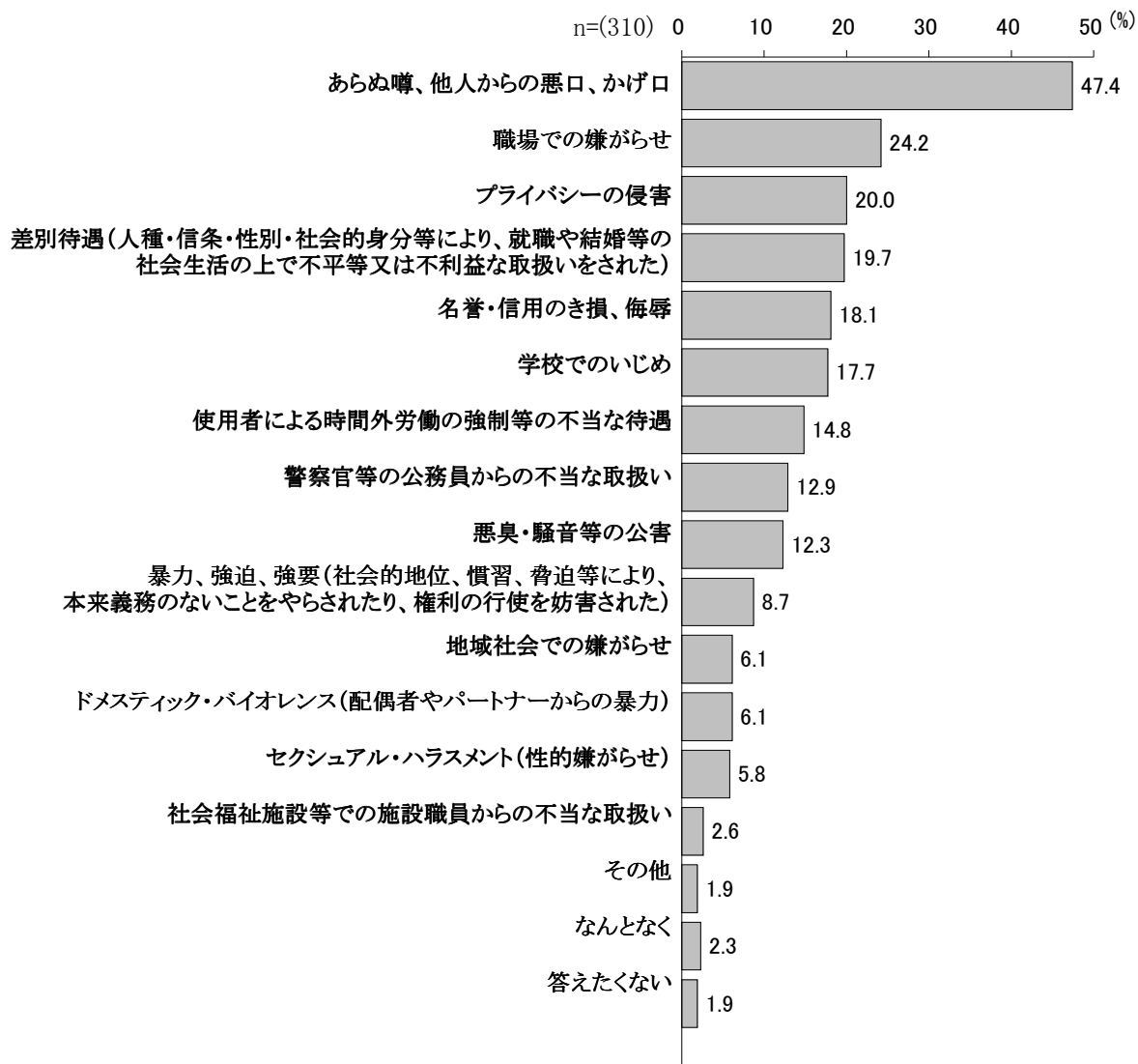
Q6-1 ある場合、どのような人権侵害をされましたか。(該当するものすべてに「○」)

自己的人権が侵害されたことがあると答えた方に、その内容を尋ねたところ、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が43.4%で最も高く、次いで「職場での嫌がらせ（パワー・ハラスメント、マタニティー・ハラスメント（妊娠・出産を理由とした嫌がらせ）等）」が31.5%、「プライバシーの侵害」が23.2%、「名誉・信用のき損、侮辱」が22.9%などとなっている。



参考 内閣府 人権侵害の内容（複数回答）

内閣府調査における人権侵害の内容では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が47.4%で最も高く、次いで「職場での嫌がらせ」が24.2%、「プライバシーの侵害」が20.0%、「差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分等により、就職や結婚等の社会生活の上で不平等又は不利益な取扱いをされた）」が19.7%などとなっている。



【性別・年代別・職業別】

性別では、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」、「ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）」は、女性のほうが男性より10ポイント以上高くなっている。一方、「名誉・信用のき損、侮辱」は、男性（29.5%）のほうが女性（18.2%）より11.3ポイント高くなっている。

年代別では、「学校でのいじめ」は、年代が下がるにつれて高くなっている。

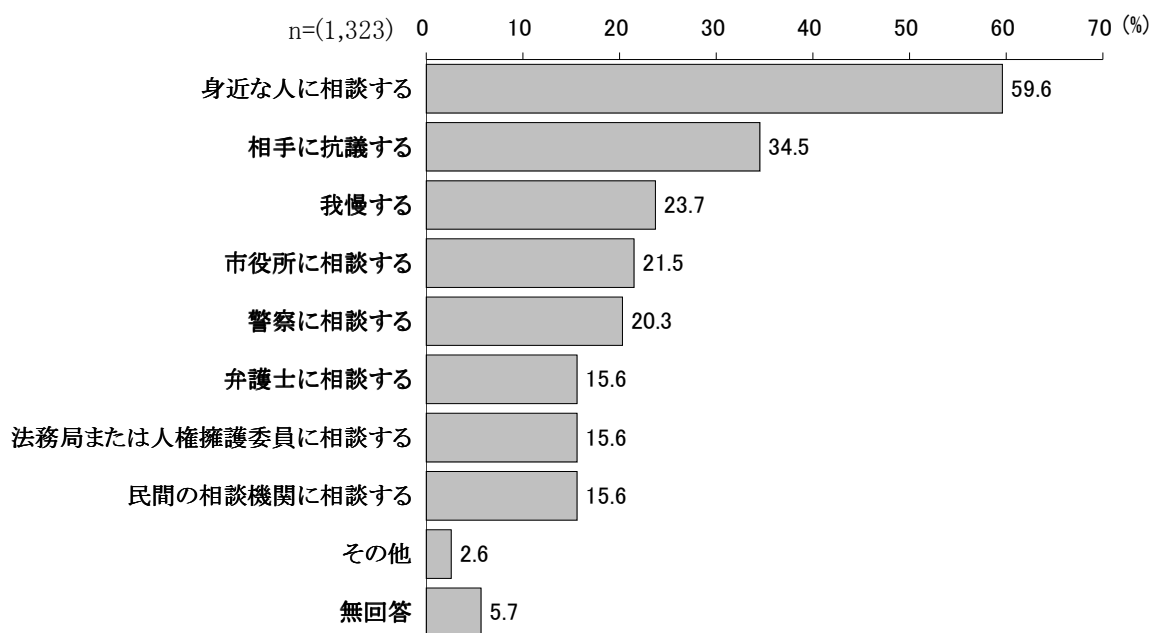
職業別では、「差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分等により、就職や結婚等の社会生活の上で不平等又は不利益な取り扱いをされた）」は、パート・アルバイト・契約社員など（24.3%）で最も高くなっている。

	調査数	あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	職場での嫌がらせ（パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産を理由とした嫌がらせ）等）	プライバシーの侵害	名誉・信用のき損、侮辱	学校でのいじめ	使用者による時間外労働の強制等の不当な待遇	悪臭・騒音等の公害	差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分等により、就職や結婚等の社会生活の上で不平等又は不利益な取り扱いをされた）	警察官等の公務員からの不当な取り扱い	暴力、強迫、強要（社会的地位、慣習、脅迫等により、本来義務のないことをやらされた）	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）	地域社会での嫌がらせ	社会福祉施設等での施設職員からの不当な取り扱い	その他	無回答
全体	371	43.4	31.5	23.2	22.9	21.3	17.8	17.5	17.0	12.9	11.9	9.4	8.1	7.3	2.2	6.7	0.3
性別																	
男性	149	43.6	26.8	19.5	29.5	18.1	16.8	20.8	16.1	14.8	15.4	1.3	0.7	8.1	-	8.1	0.7
女性	220	42.7	34.5	25.9	18.2	23.2	18.6	15.5	17.3	11.8	9.1	15.0	13.2	6.8	3.6	5.5	-
年齢別																	
19歳以下	6	50.0	-	50.0	33.3	50.0	-	-	-	16.7	33.3	-	-	-	-	-	-
20～29歳	24	54.2	45.8	25.0	20.8	41.7	20.8	4.2	16.7	12.5	16.7	8.3	4.2	8.3	4.2	-	-
30～39歳	63	41.3	27.0	20.6	15.9	25.4	28.6	14.3	19.0	14.3	11.1	6.3	4.8	3.2	-	7.9	-
40～49歳	83	38.6	43.4	24.1	21.7	25.3	20.5	14.5	19.3	13.3	15.7	16.9	10.8	2.4	3.6	8.4	1.2
50～59歳	65	41.5	40.0	24.6	33.8	24.6	18.5	23.1	20.0	16.9	12.3	13.8	10.8	4.6	3.1	3.1	-
60～69歳	78	55.1	23.1	23.1	21.8	12.8	11.5	20.5	14.1	11.5	9.0	5.1	6.4	15.4	1.3	7.7	-
70～79歳	35	31.4	20.0	22.9	20.0	8.6	11.4	28.6	14.3	5.7	-	2.9	8.6	14.3	2.9	5.7	-
80歳以上	15	33.3	6.7	13.3	20.0	-	6.7	13.3	6.7	13.3	13.3	6.7	13.3	6.7	-	6.7	-
職業																	
会社員・公務員など	114	37.7	38.6	22.8	22.8	20.2	18.4	14.0	17.5	14.9	11.4	8.8	5.3	1.8	1.8	7.0	0.9
パート・アルバイト・契約社員など	74	43.2	39.2	18.9	24.3	23.0	20.3	12.2	24.3	9.5	17.6	14.9	12.2	4.1	1.4	4.1	-
自営業・個人業	24	45.8	25.0	20.8	20.8	25.0	20.8	33.3	12.5	25.0	12.5	-	8.3	4.2	-	4.2	-
家事専業	72	44.4	30.6	30.6	18.1	26.4	25.0	22.2	16.7	11.1	6.9	9.7	9.7	6.9	4.2	5.6	-
学生	11	72.7	18.2	36.4	27.3	54.5	-	9.1	-	9.1	18.2	18.2	-	9.1	-	-	-
その他の職業	10	40.0	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-	20.0	-	-	-	10.0	20.0	10.0	30.0	-
仕事はしていない	61	47.5	18.0	19.7	27.9	11.5	8.2	19.7	11.5	14.8	11.5	8.2	8.2	19.7	1.6	8.2	-

(8) 人権侵害への対応

Q7 あなたは、もし、ご自分の人権が侵害された場合、どうしますか。(該当するものすべてに「○」)

自分の人権が侵害された場合の対応について尋ねたところ、「身近な人に相談する」が59.6%で最も高く、次いで「相手に抗議する」が34.5%、「我慢する」が23.7%などとなっている。



【性別・年代別・職業別】

性別では、「身近な人に相談する」は、女性（69.8%）のほうが男性（47.1%）より22.7ポイント高くなっている。一方、「相手に抗議する」は、男性（44.7%）のほうが女性（26.2%）より18.5ポイント高くなっている。

年代別では、「身近な人に相談する」は、20～29歳（78.9%）で最も高く、それ以降は年代が上がるにつれて低くなっている。「我慢する」は、30～39歳（38.2%）で最も高くなっている。

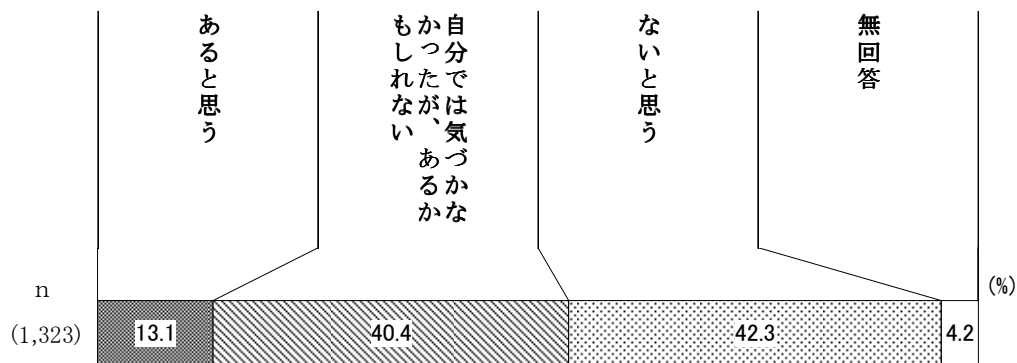
職業別では、「我慢する」は、学生（35.5%）で最も高くなっている。「弁護士に相談する」、「警察に相談する」は、自営業で最も高くなっている。

	調査数	身近な人に相談する	相手に抗議する	我慢する	市役所に相談する	警察に相談する	弁護士に相談する	法務局または人権擁護委員に相談する	民間の相談機関に相談する	その他	無回答
全体	1,323	59.6	34.5	23.7	21.5	20.3	15.6	15.6	15.6	2.6	5.7
性別											
男性	586	47.1	44.7	20.3	20.3	23.4	20.6	18.3	11.8	2.7	5.8
女性	722	69.8	26.2	26.5	22.3	17.9	11.2	13.3	18.8	2.6	5.3
年齢別											
19歳以下	16	37.5	37.5	43.8	-	-	-	6.3	6.3	-	12.5
20～29歳	71	78.9	29.6	31.0	9.9	7.0	5.6	5.6	7.0	1.4	4.2
30～39歳	165	73.3	31.5	38.2	13.9	10.3	10.9	7.9	13.3	1.2	3.0
40～49歳	235	67.2	31.9	31.1	17.9	17.0	14.9	13.2	20.9	1.7	3.0
50～59歳	231	66.2	45.0	18.6	21.2	22.1	16.0	14.7	16.0	3.9	5.2
60～69歳	284	51.4	37.0	19.4	26.8	27.1	19.4	21.8	17.6	3.9	5.6
70～79歳	217	47.9	26.3	17.1	29.5	22.6	18.0	19.8	12.9	3.2	5.5
80歳以上	94	41.5	34.0	11.7	21.3	28.7	16.0	17.0	13.8	1.1	17.0
職業											
会社員・公務員など	393	60.8	39.7	26.5	15.8	16.0	16.3	16.0	12.5	2.3	3.6
パート・アルバイト・契約社員など	207	64.7	32.4	25.6	20.3	19.8	10.6	9.2	18.8	2.4	7.2
自営業・個人業	90	50.0	36.7	21.1	17.8	28.9	34.4	15.6	17.8	-	7.8
家事専業	268	73.9	26.5	26.9	26.5	18.3	13.8	16.0	20.1	3.0	2.6
学生	31	71.0	35.5	35.5	3.2	3.2	3.2	3.2	6.5	-	3.2
その他の職業	27	55.6	44.4	22.2	37.0	18.5	18.5	33.3	29.6	-	3.7
仕事はしていない	290	43.4	34.8	14.8	26.9	27.2	14.5	19.0	12.8	4.5	9.3

(9) 他人の人権侵害

Q8 あなたはこれまでに、他人を「差別」したことがあると思いますか。(該当するもの1つに「○」)

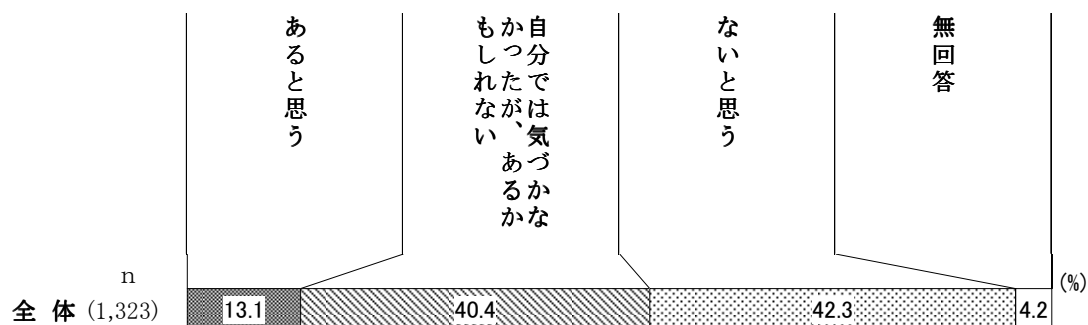
他人を差別したことがあるか尋ねたところ、「あると思う」が13.1%、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が40.4%、「ないと思う」が42.3%となっている。



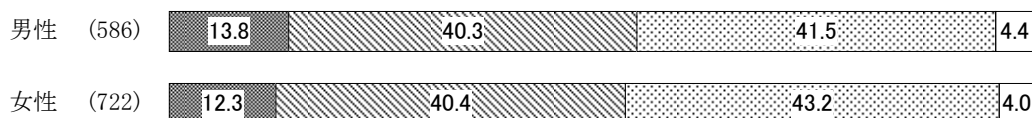
【性別・年代別】

性別では、あまり大きな違いはみられない。

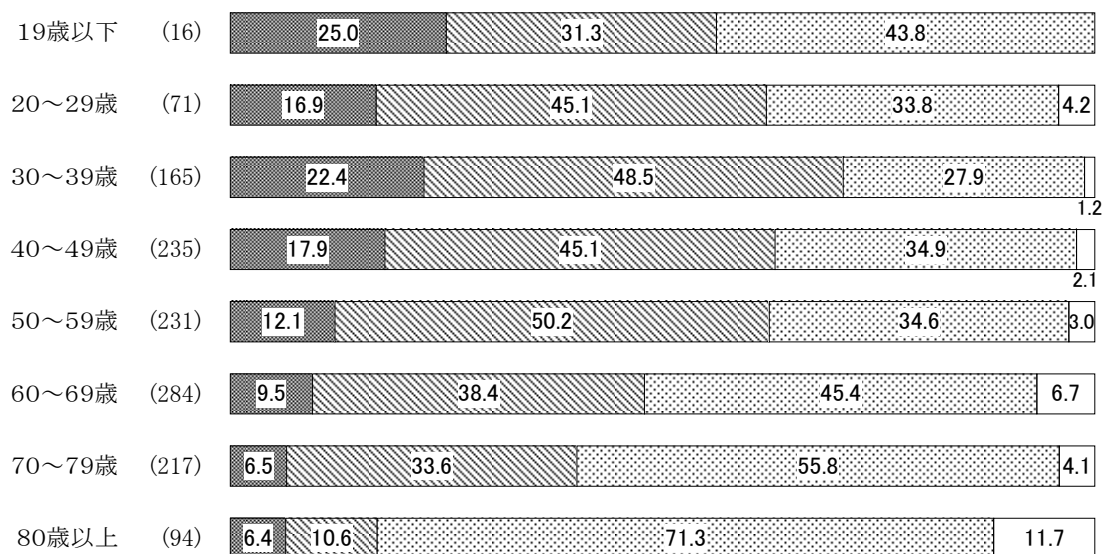
年代別では、「あると思う」は30～39歳で22.4%と最も高く、それ以降は年代が上がるにつれて低くなっている。



【性別】



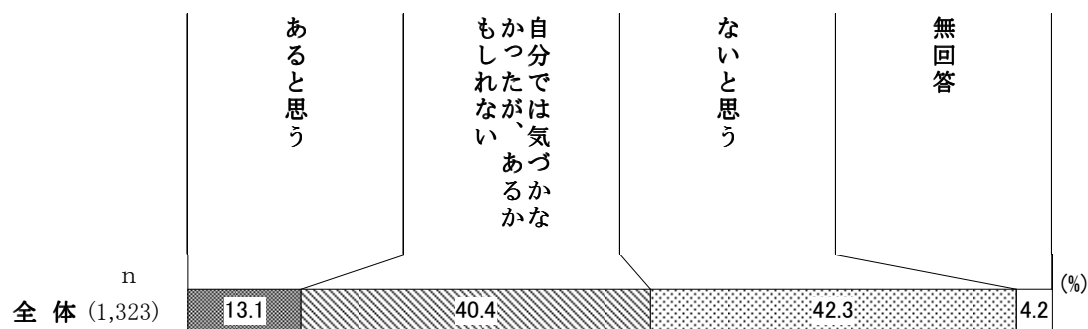
【年代別】



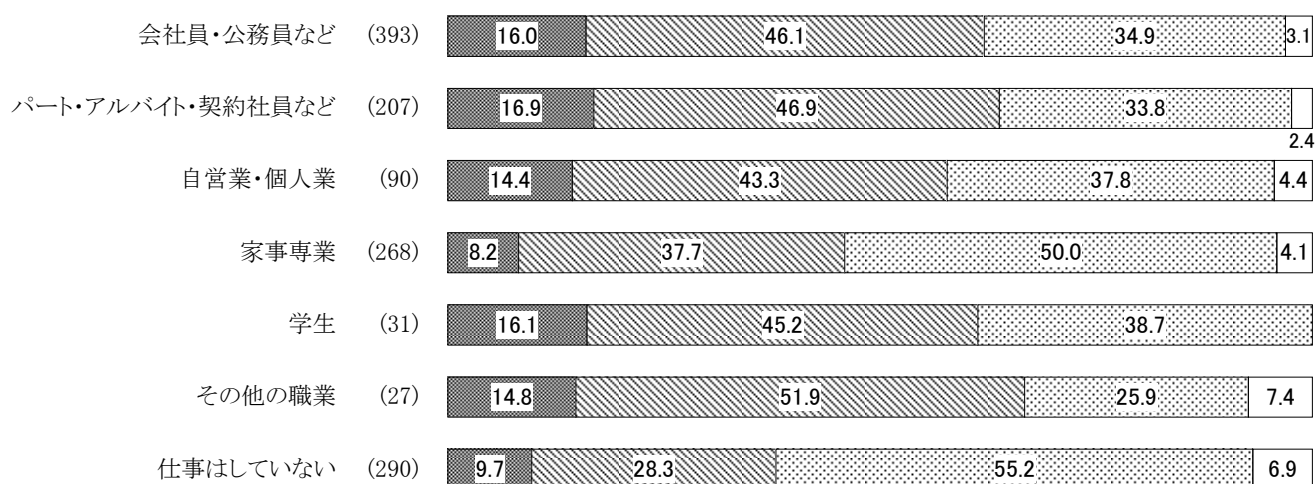
第2章 調査結果の詳細

【職業別】

職業別では、〈ある・あるかもしれない〉（「あると思う」と「自分では気づかなかったがあるかもしれない」の合計）は、家事専業（45.9%）、「仕事はしていない」（38.0%）で他の職業に比べて低くなっている。



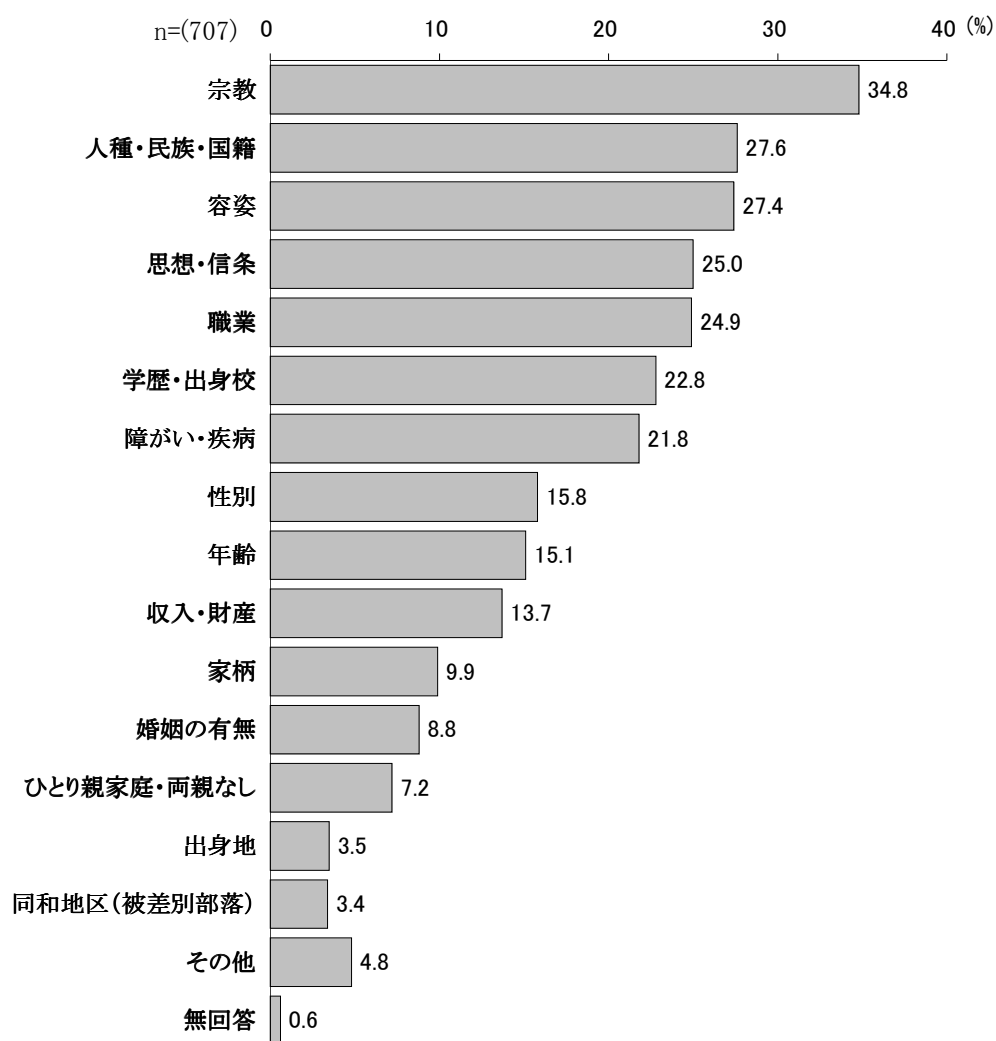
【職業】



(10) 他人の人権侵害の内容

Q8-1 何について、差別をしたと思いますか。または、何について、差別をしたかもしれないと思いますか。(該当するものすべてに「○」)

他人を差別したことがある、あるかもしれないと答えた方に、その内容について尋ねたところ、「宗教」が34.8%で最も高く、次いで「人種・民族・国籍」が27.6%、「容姿」が27.4%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別・職業別】

性別では、「宗教」は、女性（40.4%）のほうが「男性」（27.8%）より12.6ポイント高くなっている。一方、「性別」は、男性（21.1%）のほうが女性（11.3%）より9.8ポイント高くなっている。

年代別では、「容姿」、「障がい・疾病」は、20～29歳で最も高く、それ以降は年代が上がるにつれて低くなっている。

職業別では、「宗教」は、家事専業（46.3%）で最も高くなっている。「婚姻の有無」は、パート・アルバイト・契約社員など（15.9%）で最も高くなっている。

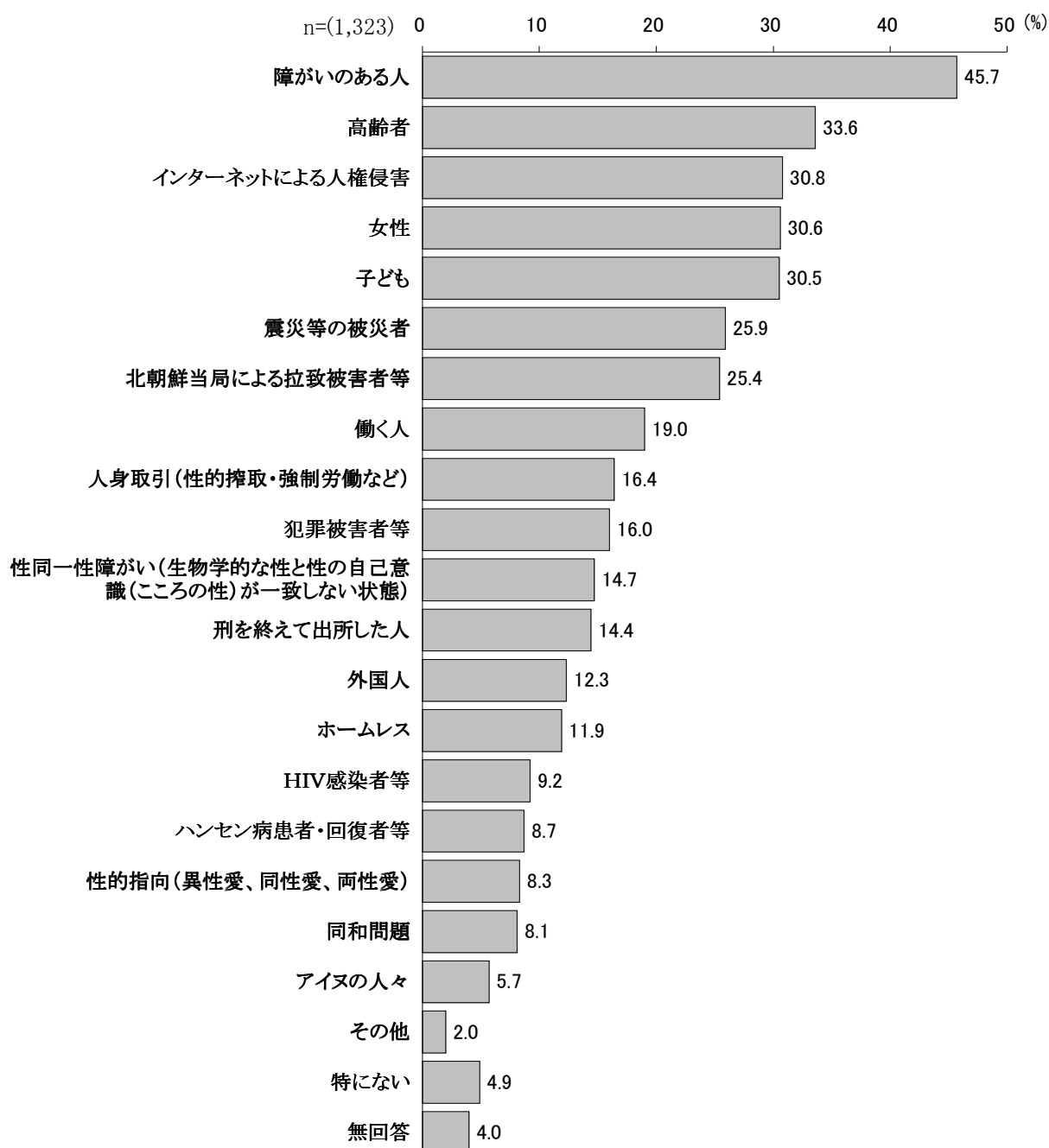
	調査数	宗教	人種・民族・国籍	容姿	思想・信条	職業	学歴・出身校	障がい・疾病	性別
全体	707	34.8	27.6	27.4	25.0	24.9	22.8	21.8	15.8
性別									
男性	317	27.8	28.4	32.2	26.5	24.0	21.8	19.6	21.1
女性	381	40.4	26.8	24.1	24.1	25.5	23.4	24.1	11.3
年齢別									
19歳以下	9	11.1	-	22.2	44.4	-	11.1	22.2	11.1
20～29歳	44	29.5	18.2	47.7	31.8	27.3	29.5	40.9	13.6
30～39歳	117	41.9	29.9	37.6	17.1	23.1	17.9	29.9	13.7
40～49歳	148	27.7	24.3	33.1	21.6	28.4	18.9	23.0	18.2
50～59歳	144	31.9	29.9	22.9	21.5	31.9	27.8	18.8	17.4
60～69歳	136	35.3	28.7	22.1	31.6	22.8	25.0	17.6	15.4
70～79歳	87	46.0	31.0	16.1	29.9	16.1	19.5	13.8	13.8
80歳以上	16	31.3	25.0	6.3	37.5	12.5	31.3	12.5	12.5
職業									
会社員・公務員など	244	29.5	26.6	34.8	22.1	27.5	21.7	24.2	20.5
パート・アルバイト・契約社員など	132	39.4	29.5	28.0	26.5	27.3	20.5	23.5	15.2
自営業・個人業	52	30.8	32.7	25.0	25.0	25.0	21.2	19.2	15.4
家事専業	123	46.3	25.2	22.0	24.4	23.6	26.8	23.6	4.1
学生	19	15.8	10.5	31.6	36.8	26.3	36.8	26.3	15.8
その他の職業	18	22.2	33.3	27.8	27.8	16.7	33.3	27.8	16.7
仕事はしていない	110	35.5	29.1	18.2	29.1	19.1	20.0	12.7	19.1

	調査数	年齢	収入・財産	家柄	婚姻の有無	ひとり親家庭・両親なし	出身地	同和地区（被差別部落）	その他	無回答
全体	707	15.1	13.7	9.9	8.8	7.2	3.5	3.4	4.8	0.6
性別										
男性	317	18.0	12.6	8.8	11.0	4.4	4.4	4.4	4.7	0.6
女性	381	13.1	14.4	10.8	7.1	9.4	2.9	2.6	4.7	0.5
年齢別										
19歳以下	9	22.2	-	-	-	-	11.1	-	-	-
20～29歳	44	13.6	13.6	2.3	4.5	15.9	4.5	-	2.3	-
30～39歳	117	13.7	12.0	7.7	9.4	8.5	3.4	1.7	2.6	-
40～49歳	148	20.3	14.2	6.8	8.8	8.8	4.1	1.4	5.4	-
50～59歳	144	13.9	16.0	9.7	8.3	6.9	4.2	4.9	5.6	2.1
60～69歳	136	14.7	15.4	14.0	11.8	3.7	1.5	3.7	5.1	-
70～79歳	87	14.9	10.3	16.1	9.2	5.7	4.6	6.9	5.7	1.1
80歳以上	16	-	12.5	12.5	-	6.3	-	12.5	6.3	-
職業										
会社員・公務員など	244	16.8	13.1	4.9	8.2	7.0	3.3	2.0	4.1	0.4
パート・アルバイト・契約社員など	132	20.5	15.9	14.4	15.9	9.1	2.3	2.3	3.8	-
自営業・個人業	52	21.2	15.4	9.6	5.8	3.8	7.7	3.8	7.7	3.8
家事専業	123	4.9	13.8	12.2	4.9	7.3	3.3	3.3	2.4	-
学生	19	15.8	5.3	5.3	5.3	15.8	15.8	-	-	-
その他の職業	18	16.7	22.2	16.7	5.6	16.7	5.6	11.1	-	-
仕事はしていない	110	14.5	11.8	12.7	9.1	4.5	1.8	7.3	9.1	0.9

(11) 人権問題への関心度

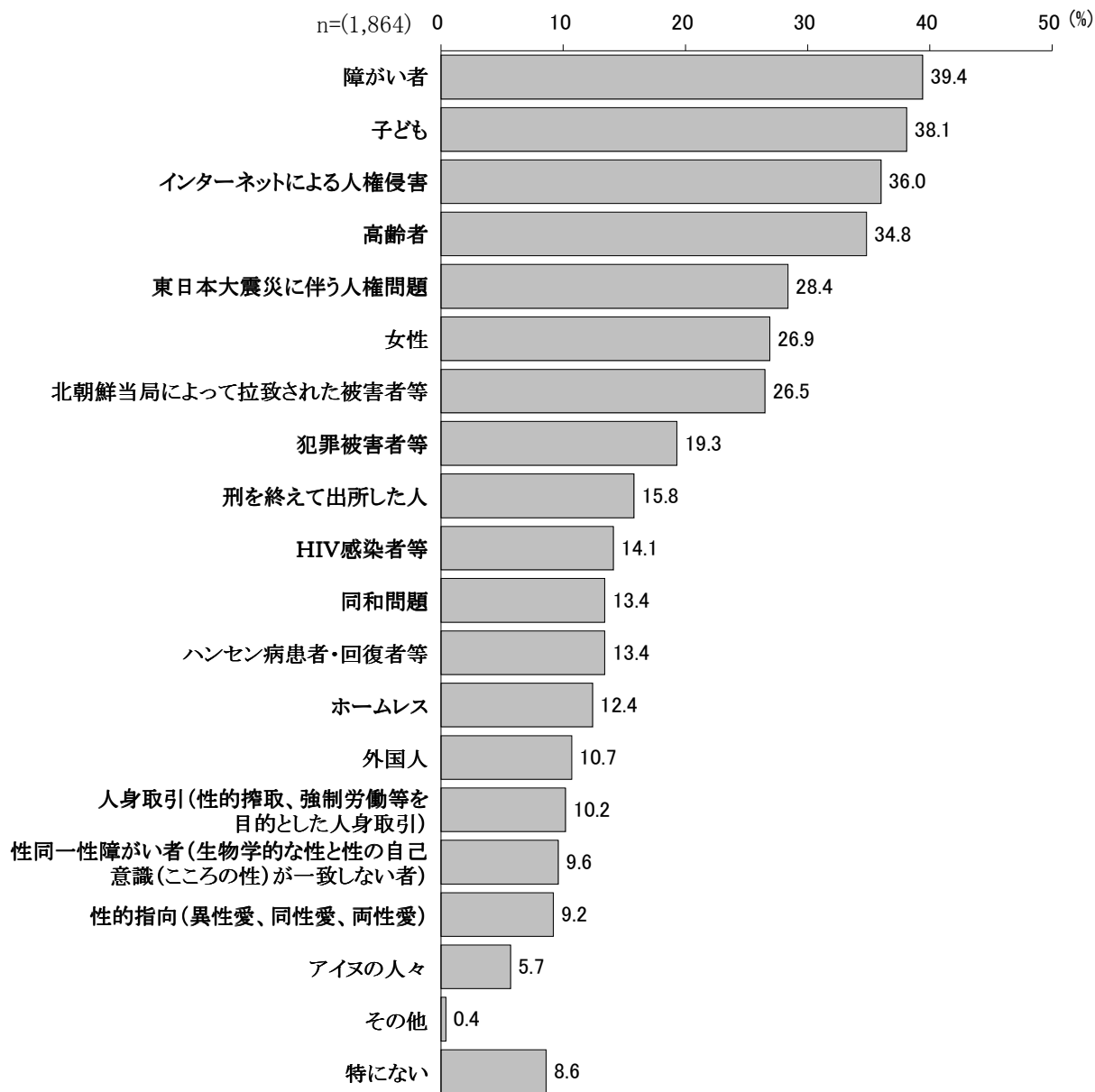
Q9 人権には、さまざまな課題がありますが、あなたが関心のある人権課題は、どれですか。(該当するものすべてに「○」)

関心のある人権課題について尋ねたところ、「障がいのある人」が45.7%で最も高く、次いで「高齢者」が33.6%、「インターネットによる人権侵害」が30.8%、「女性」が30.6%、「子ども」が30.5%などとなっている。



参考 内閣府 人権課題に対する関心（複数回答）

内閣府調査における人権課題に対する関心では、「障がい者」が39.4%で最も高く、次いで「子ども」が38.1%、「インターネットによる人権侵害」が36.0%、「高齢者」が34.8%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「女性」、「子ども」は、女性のほうが男性より10ポイント以上高くなっている。

年代別では、「高齢者」、「北朝鮮当局による拉致被害者等」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。一方、「インターネットによる人権侵害」、「女性」、「働く人」、「性同一性障がい（生物学的な性と性の自己意識（こころの性）が一致しない状態）」、「外国人」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	障がいのある人	高齢者	インターネットによる人権侵害	女性	子ども	震災等の被災者	北朝鮮当局による拉致被害者等	働く人	人身取引（性的搾取・強制労働など）	犯罪被害者等	性同一性障がい（生物学的な性と性の自己意識（こころの性）が一致しない状態）
全体	1,323	45.7	33.6	30.8	30.6	30.5	25.9	25.4	19.0	16.4	16.0	14.7
性別												
男性	586	41.5	29.0	31.1	20.6	25.1	21.0	22.5	17.1	15.9	16.0	10.6
女性	722	49.3	37.4	31.0	38.9	35.2	29.9	27.7	20.6	16.6	16.3	18.1
年齢別												
19歳以下	16	43.8	18.8	50.0	31.3	25.0	31.3	6.3	25.0	-	12.5	12.5
20～29歳	71	43.7	19.7	45.1	40.8	29.6	18.3	5.6	38.0	12.7	18.3	33.8
30～39歳	165	42.4	21.2	31.5	43.0	40.6	23.0	12.1	24.2	10.3	19.4	23.0
40～49歳	235	37.4	20.9	41.3	37.9	33.6	18.3	19.1	24.7	17.4	21.3	20.0
50～59歳	231	51.1	29.4	32.0	35.1	30.3	26.8	26.8	18.6	16.0	18.6	17.7
60～69歳	284	51.1	43.7	29.2	23.2	27.8	32.0	33.1	14.1	17.6	13.4	8.1
70～79歳	217	46.5	49.8	20.3	19.8	29.5	28.1	33.6	11.1	20.7	8.3	6.0
80歳以上	94	42.6	44.7	18.1	20.2	18.1	29.8	35.1	14.9	13.8	16.0	6.4

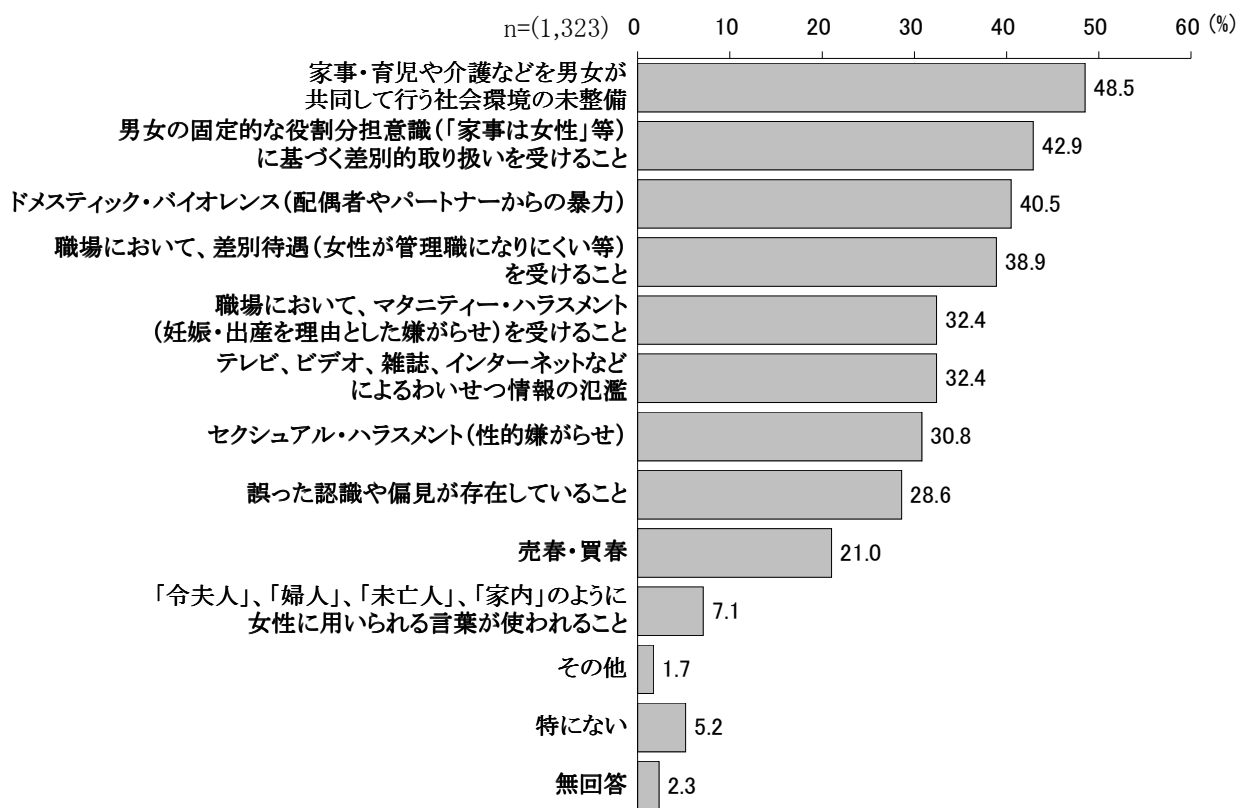
	調査数	刑を終えて出所した人	外国人	ホームレス	HIV感染者等	ハンセン病患者・回復者等	性的指向（異性愛、同性愛、両性愛）	同和問題	アイヌの人々	その他	特になし	無回答
全体	1,323	14.4	12.3	11.9	9.2	8.7	8.3	8.1	5.7	2.0	4.9	4.0
性別												
男性	586	12.8	13.5	11.4	8.0	6.8	7.0	8.5	4.9	1.7	6.0	5.1
女性	722	15.8	11.6	12.5	10.4	10.4	9.1	7.9	6.4	2.1	4.0	2.9
年齢別												
19歳以下	16	31.3	6.3	37.5	-	-	12.5	-	6.3	-	-	6.3
20～29歳	71	11.3	18.3	11.3	8.5	2.8	23.9	1.4	4.2	1.4	2.8	2.8
30～39歳	165	7.9	16.4	4.2	10.3	9.1	15.8	5.5	6.1	3.0	4.8	2.4
40～49歳	235	15.3	14.0	10.6	11.1	8.1	8.5	7.2	4.7	3.4	6.8	3.8
50～59歳	231	13.0	15.6	10.4	10.4	10.4	7.8	9.5	6.1	1.3	2.2	4.3
60～69歳	284	16.2	11.3	16.9	8.5	9.5	3.2	10.6	7.0	1.1	4.6	3.2
70～79歳	217	16.6	6.9	12.9	9.2	9.2	4.1	10.6	6.0	1.8	5.5	4.1
80歳以上	94	16.0	6.4	11.7	5.3	8.5	7.4	5.3	3.2	1.1	8.5	8.5

2. 女性の人権について

(1) 女性の人権問題

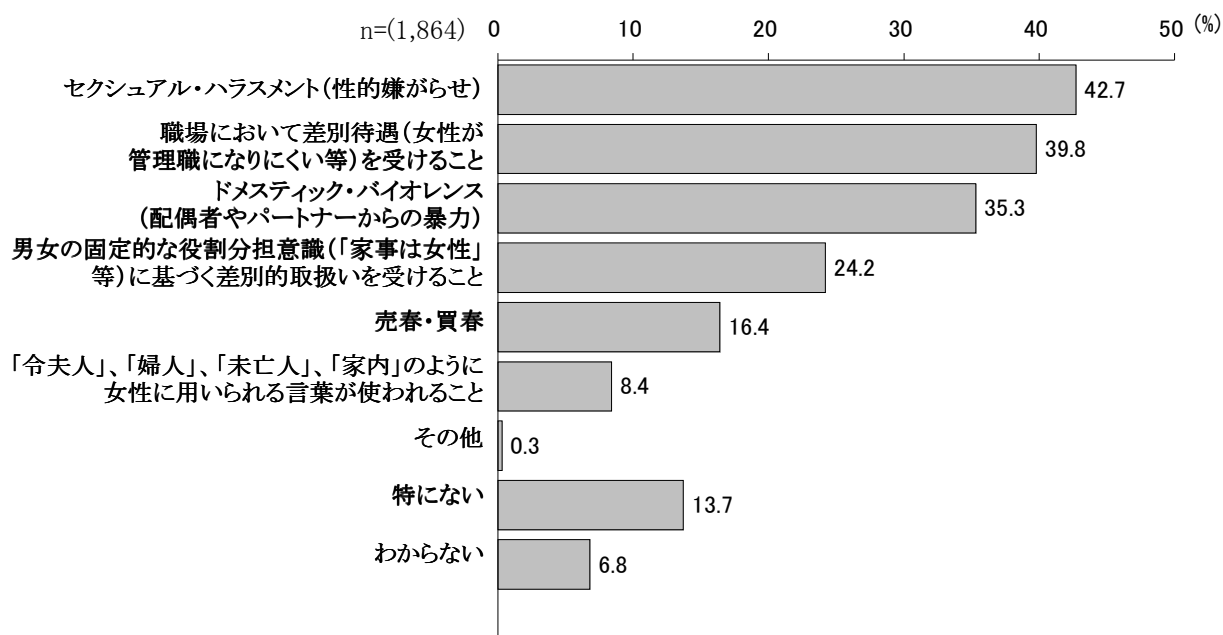
Q10 あなたは、女性に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

女性の人権問題について尋ねたところ、「家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会環境の未整備」が48.5%で最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）に基づく差別的取り扱いを受けること」が42.9%、「ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）」が40.5%などとなっている。



参考 内閣府 女性に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査における女性に関する人権問題では、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が42.7%で最も高く、次いで「職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい等）を受けること」が39.8%、「ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）」が35.3%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、「誤った認識や偏見が存在していること」以外のすべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「職場において、マタニティー・ハラスメント（妊娠・出産を理由とした嫌がらせ）を受けること」（女性37.7%、男性25.9%）は、11.8ポイント差となっている。

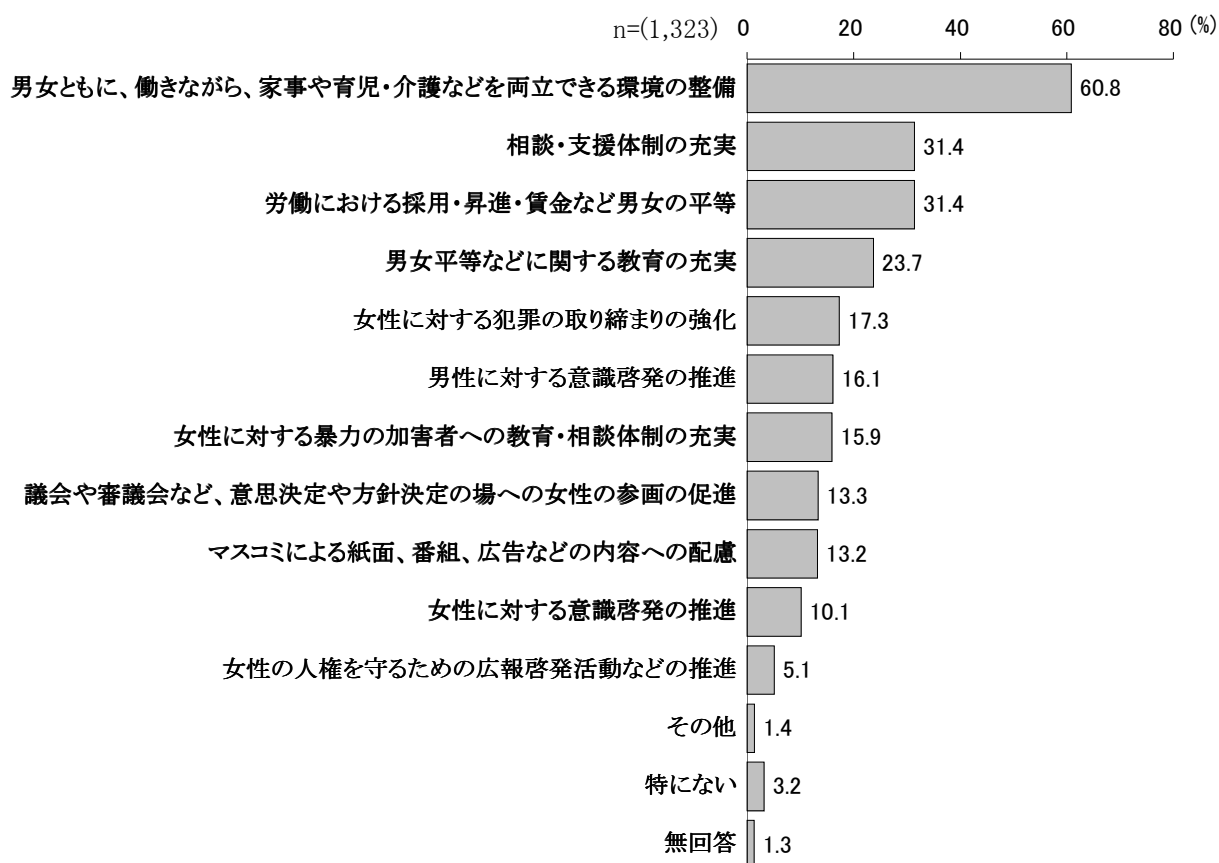
年代別では、「ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）」は、50～59歳（52.8%）で5割を超えて最も高くなっている。「職場において、マタニティー・ハラスメント（妊娠・出産を理由とした嫌がらせ）を受けること」は、30～39歳（47.9%）で最も高くなっている。また、「テレビ、ビデオ、雑誌、インターネットなどによるわいせつ情報の氾濫」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	社会環境の未整備	家事・育児や介護などを男女が共同で行うこと	男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）に基づく差別的取り扱いを受けること	パートナーからの暴力	ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）	職場において、差別待遇（女性が管理職になること）を受けること	職場において、マタニティー・ハラスメント（妊娠・出産を理由とした嫌がらせ）を受けること	職場において、マタニティー・ハラスメント（妊娠・出産を理由とした嫌がらせ）を受けること	テレビ、ビデオ、雑誌、インターネットなどによるわいせつ情報の氾濫	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	誤った認識や偏見が存在していること	売春・買春	内閣府の調査による「女性に用いられる言葉が使われること」	その他	特になし	無回答
全体	1,323	48.5	42.9	40.5	38.9	32.4	32.4	30.8	28.6	21.0	7.1	1.7	5.2	2.3			
性別																	
男性	586	45.4	41.0	37.4	36.0	25.9	27.6	30.9	30.0	18.6	3.9	1.2	5.3	2.4			
女性	722	51.7	44.7	43.4	41.7	37.7	35.7	30.9	27.6	23.1	9.7	1.9	5.3	2.1			
年齢別																	
19歳以下	16	37.5	56.3	31.3	37.5	37.5	12.5	43.8	37.5	37.5	-	-	-	-			
20～29歳	71	46.5	40.8	32.4	45.1	40.8	19.7	38.0	36.6	16.9	9.9	-	2.8	1.4			
30～39歳	165	55.2	43.6	30.3	37.6	47.9	17.6	25.5	27.9	9.7	4.2	0.6	3.6	-			
40～49歳	235	58.3	45.1	43.8	45.1	32.8	28.9	37.4	26.4	23.4	6.4	0.9	4.3	0.9			
50～59歳	231	49.4	48.1	52.8	43.3	33.3	30.3	39.8	27.7	24.7	6.5	3.5	3.0	0.9			
60～69歳	284	45.1	40.8	38.7	35.9	26.1	36.3	25.0	26.8	20.4	6.0	2.5	7.0	3.2			
70～79歳	217	42.9	38.7	42.4	35.5	29.0	45.6	26.7	28.6	23.5	12.4	0.9	5.1	4.6			
80歳以上	94	42.6	39.4	27.7	27.7	21.3	39.4	21.3	35.1	21.3	5.3	1.1	13.8	6.4			

(2) 女性の人権擁護

Q11 あなたは、女性の人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。
(該当するもの3つ以内に「○」)

女性の人権擁護のために必要なことは、「男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境の整備」が60.8%で最も高く、次いで「相談・支援体制の充実」と「労働における採用・昇進・賃金など男女の平等」がともに31.4%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、あまり大きな違いはみられない

年代別では、「男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境の整備」は、30～39歳（72.7%）で最も高くなっている。「労働における採用・昇進・賃金など男女の平等」は、20～29歳（42.3%）で最も高くなっている。

	調査数	男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境の整備	相談・支援体制の充実	労働における採用・昇進・賃金など男女の平等	男女平等などに関する教育の充実	女性に対する犯罪の取り締まりの強化	男性に対する意識啓発の推進	女性に対する暴力の加害者への教育・相談体制の充実
全体	1,323	60.8	31.4	31.4	23.7	17.3	16.1	15.9
性別								
男性	586	61.8	29.4	29.4	25.1	14.8	14.7	13.1
女性	722	60.2	33.0	32.7	22.7	19.4	17.5	18.1
年齢別								
19歳以下	16	50.0	50.0	18.8	37.5	25.0	18.8	12.5
20～29歳	71	66.2	29.6	42.3	18.3	14.1	15.5	12.7
30～39歳	165	72.7	24.8	30.9	24.2	18.2	16.4	12.7
40～49歳	235	57.0	28.1	35.7	22.1	15.7	22.6	14.9
50～59歳	231	64.5	32.9	30.7	22.1	16.9	20.8	18.6
60～69歳	284	59.2	33.5	27.1	22.2	18.7	16.5	18.7
70～79歳	217	57.1	35.9	28.6	27.6	18.9	7.4	15.2
80歳以上	94	54.3	26.6	33.0	27.7	14.9	7.4	12.8

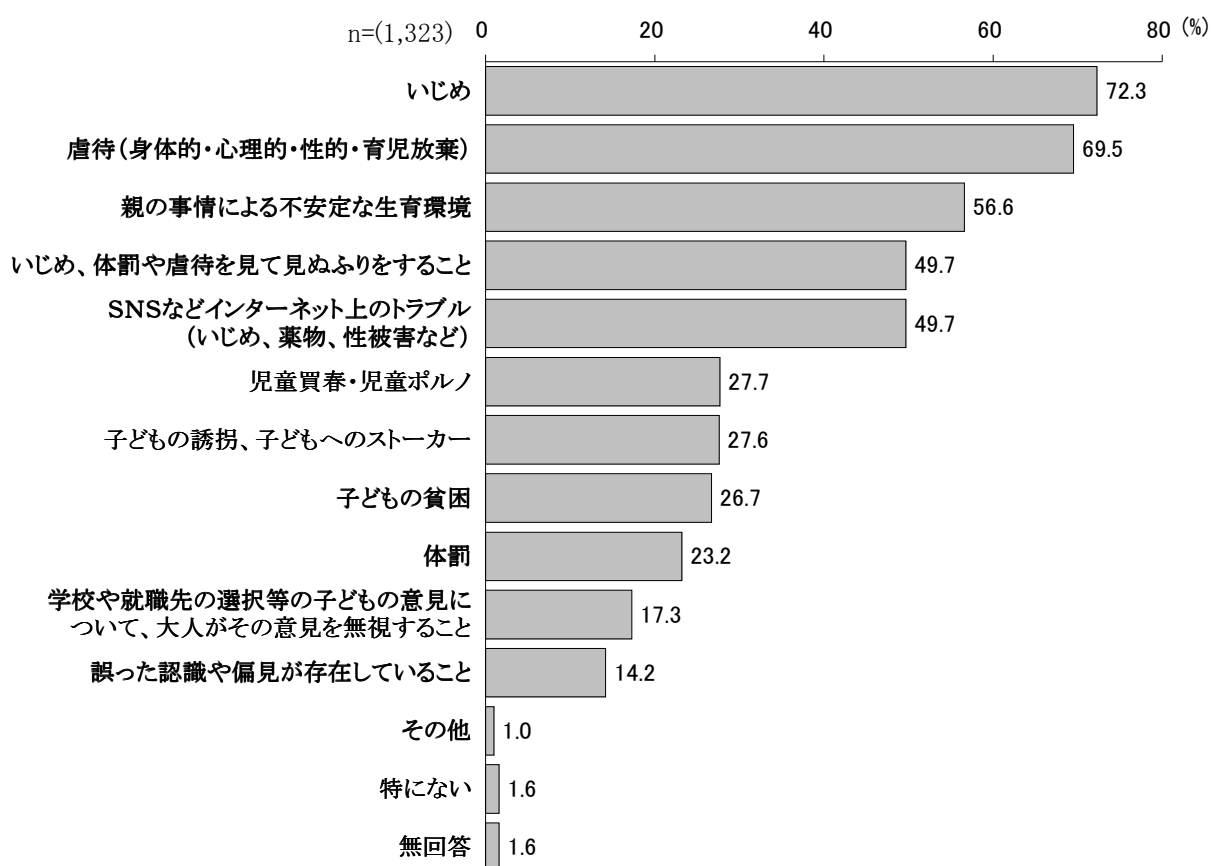
	調査数	議会や審議会などの女性の参画の促進	マスコミへの配慮	女性に対する意識啓発の推進	女性の権利を守るための広報啓発活動などの推進	その他	特になし	無回答
全体	1,323	13.3	13.2	10.1	5.1	1.4	3.2	1.3
性別								
男性	586	13.8	13.5	10.6	5.1	1.4	3.9	0.9
女性	722	12.9	12.7	9.7	5.0	1.4	2.5	1.5
年齢別								
19歳以下	16	6.3	12.5	18.8	-	-	-	-
20～29歳	71	9.9	9.9	9.9	1.4	1.4	2.8	1.4
30～39歳	165	8.5	9.1	8.5	3.6	3.0	2.4	0.6
40～49歳	235	9.8	8.9	12.8	3.0	1.3	3.4	0.9
50～59歳	231	16.0	14.3	11.3	5.2	0.9	1.3	-
60～69歳	284	12.7	16.2	10.2	5.3	1.8	3.9	1.4
70～79歳	217	17.1	15.7	7.4	8.3	0.9	3.2	2.8
80歳以上	94	20.2	13.8	8.5	8.5	-	7.4	3.2

3. 子どもの人権について

(1) 子どもの人権問題

Q12 あなたは、子どもに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

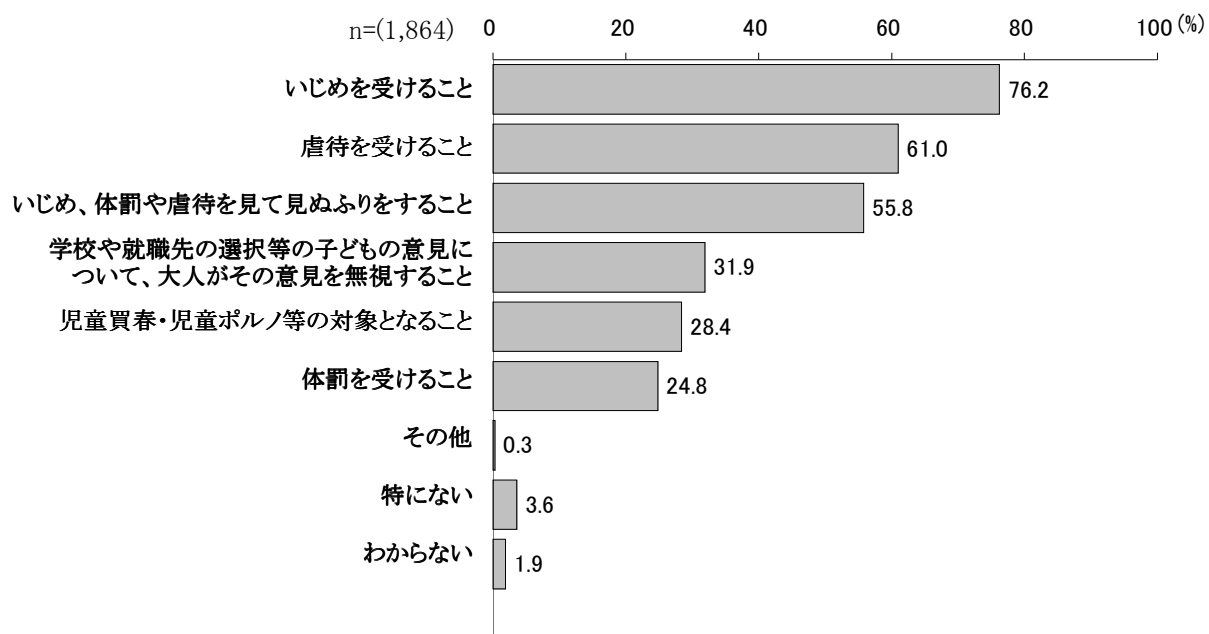
子どもの人権問題について尋ねたところ、「いじめ」が72.3%で最も高く、次いで「虐待(身体的・心理的・性的・育児放棄)」が69.5%、「親の事情による不安定な生育環境」が56.6%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

参考 内閣府 子どもに関する人権問題（複数回答）

内閣府調査における子どもに関する人権問題では、「いじめを受けること」が76.2%で最も高く、次いで「虐待を受けること」が61.0%、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする事」が55.8%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「いじめ」以外のすべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「SNS などインターネット上のトラブル（いじめ、薬物、性被害など）」（女性56.9%、男性41.1%）は、15.8ポイント差となっている。

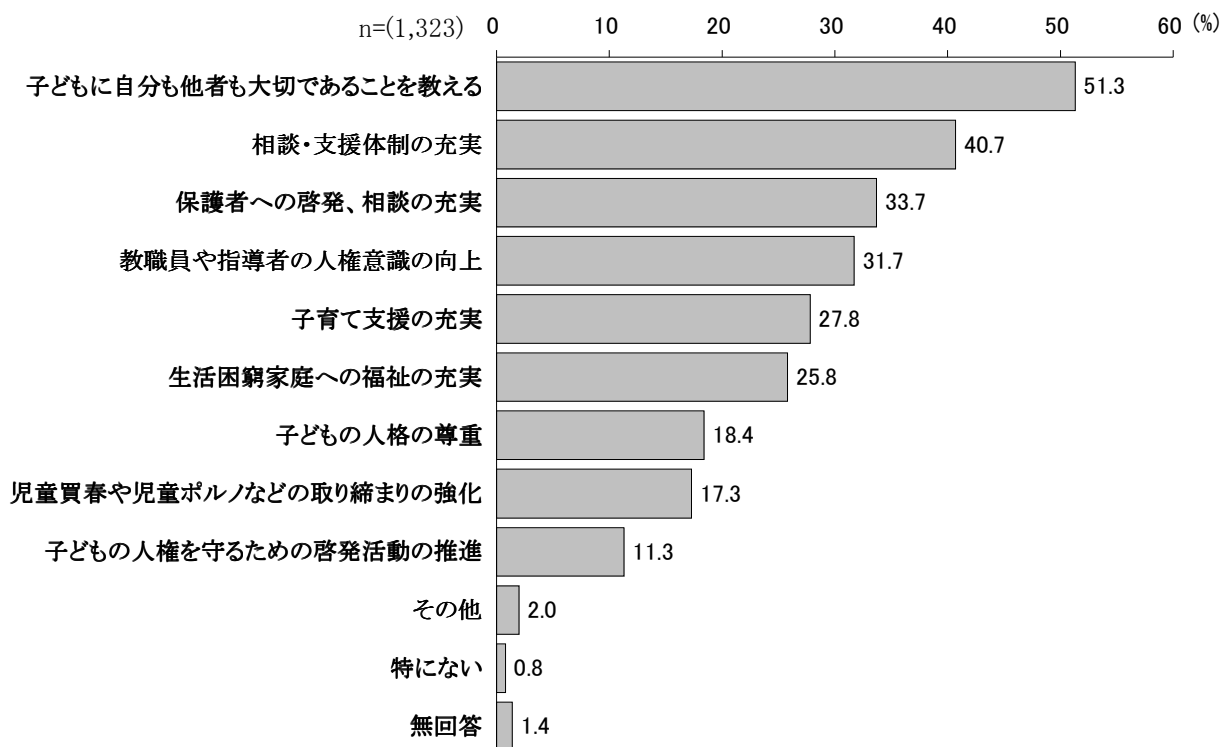
年代別では、「親の事情による不安定な生育環境」は、50～59歳（64.5%）、60～69歳（62.7%）で6割台と高くなっている。「学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を無視すること」は、20～29歳（28.2%）で他の年代に比べて高くなっている。また、「SNS などインターネット上のトラブル（いじめ、薬物、性被害など）」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	いじめ	虐待（身体的・心理的・性的・育児放棄）	親の事情による不安定な生育環境	といじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをするこ	SNS などインターネット上のトラブル（いじめ、薬物、性被害など）	児童買春・児童ポルノ	子どもの誘拐、子どもへのストーカー	子どもの貧困	体罰	学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を無視すること	誤った認識や偏見が存在していること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	72.3	69.5	56.6	49.7	49.7	27.7	27.6	26.7	23.2	17.3	14.2	1.0	1.6	1.6
性別															
男性	586	72.7	65.7	53.1	49.1	41.1	23.9	25.3	23.5	20.6	15.4	12.6	0.7	1.7	1.4
女性	722	72.2	73.3	59.6	50.3	56.9	30.9	29.4	29.2	25.2	19.1	15.2	1.2	1.5	1.7
年齢別															
19歳以下	16	81.3	50.0	43.8	56.3	43.8	25.0	31.3	6.3	37.5	25.0	31.3	-	-	-
20～29歳	71	78.9	62.0	47.9	49.3	66.2	19.7	19.7	16.9	16.9	28.2	9.9	-	-	1.4
30～39歳	165	75.8	68.5	52.1	51.5	62.4	20.0	26.7	24.2	10.3	18.2	15.8	-	-	0.6
40～49歳	235	70.6	73.2	49.8	46.4	63.0	27.2	28.9	30.6	17.4	13.6	14.5	1.3	1.3	0.9
50～59歳	231	78.4	77.9	64.5	57.1	57.1	31.2	25.5	35.9	24.2	17.7	11.7	0.4	0.9	-
60～69歳	284	72.9	74.3	62.7	48.6	43.3	27.1	25.4	26.1	30.3	13.7	12.7	1.4	1.8	0.7
70～79歳	217	69.6	62.7	57.6	50.2	33.2	34.6	33.2	24.9	28.6	18.4	15.7	1.8	1.4	3.2
80歳以上	94	53.2	52.1	47.9	39.4	23.4	26.6	28.7	13.8	24.5	23.4	18.1	1.1	8.5	8.5

(2) 子どもの人権擁護

Q13 あなたは、子どもの人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

子どもの人権擁護のために必要なことは、「子どもに自分も他者も大切であることを教える」が51.3%で最も高く、次いで「相談・支援体制の充実」が40.7%、「保護者への啓発、相談の充実」が33.7%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「子どもに自分も他者も大切であることを教える」は、女性（55.5%）のほうが男性（45.9%）より9.6ポイント高くなっている。

年代別では、「保護者への啓発、相談の充実」は、50～59歳（42.4%）で最も高くなっている。「子育て支援の充実」は、30～39歳（43.0%）で最も高くなっている。

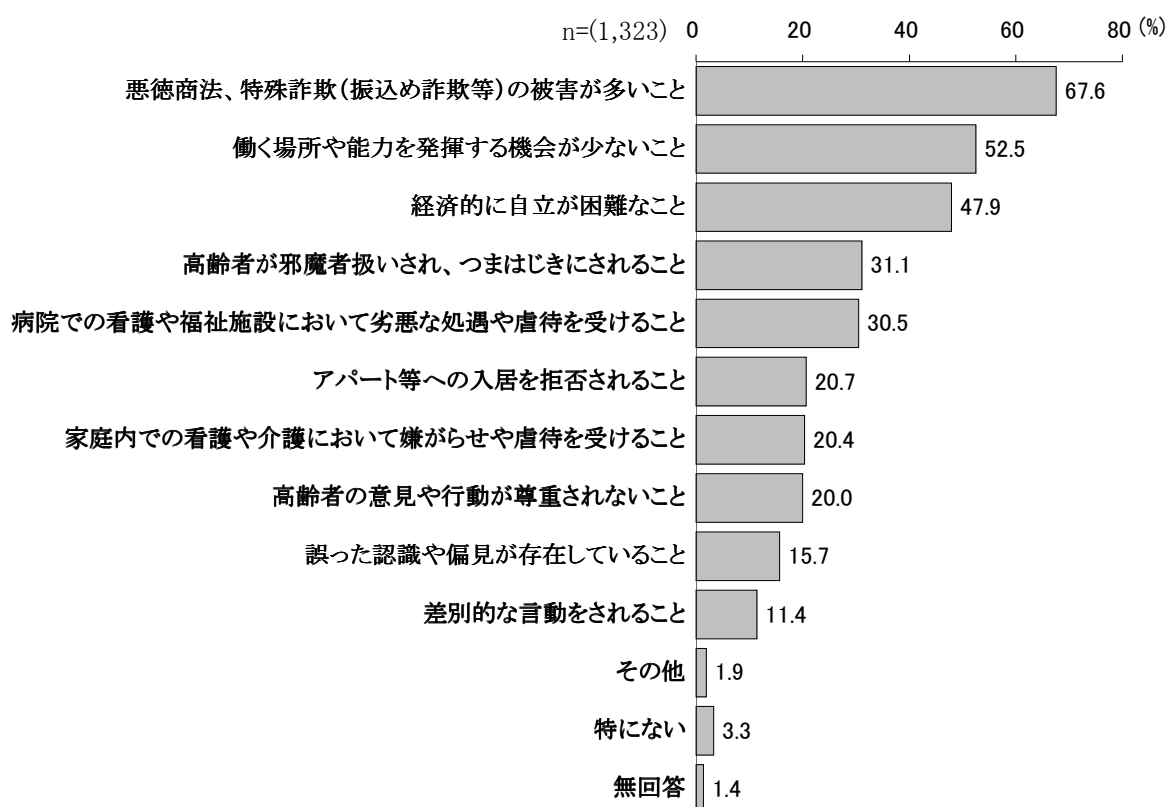
	調査数	子どもに自分も他者も大切であることを教える	相談・支援体制の充実	保護者への啓発、相談の充実	教職員や指導者の人権意識の向上	子育て支援の充実	生活困窮家庭への福祉の充実	子どもの人格の尊重	児童買春や児童ポルノなどの取り締まりの強化	子どもの人権を守るための啓発活動の推進	その他	特にない	無回答
全体	1,323	51.3	40.7	33.7	31.7	27.8	25.8	18.4	17.3	11.3	2.0	0.8	1.4
性別													
男性	586	45.9	41.5	34.3	31.1	27.0	27.3	15.4	18.3	12.1	1.9	1.4	1.2
女性	722	55.5	40.0	33.4	32.3	28.9	24.5	20.9	16.5	10.5	2.2	0.4	1.5
年齢別													
19歳以下	16	31.3	50.0	37.5	31.3	25.0	12.5	50.0	12.5	18.8	-	-	-
20～29歳	71	47.9	43.7	38.0	29.6	38.0	21.1	21.1	9.9	5.6	4.2	-	1.4
30～39歳	165	43.0	37.0	35.2	31.5	43.0	21.8	20.6	11.5	8.5	2.4	0.6	1.8
40～49歳	235	51.1	43.0	37.4	27.2	27.2	20.0	20.9	18.3	11.1	3.0	0.9	0.9
50～59歳	231	54.5	39.4	42.4	33.3	23.4	29.4	16.9	13.9	13.0	3.0	-	-
60～69歳	284	52.5	38.4	32.7	31.7	29.9	30.6	15.8	19.0	10.6	1.1	1.1	1.4
70～79歳	217	57.1	43.8	22.6	37.8	22.1	28.6	15.7	22.6	9.2	0.9	0.5	2.3
80歳以上	94	46.8	41.5	25.5	27.7	13.8	21.3	19.1	21.3	21.3	1.1	4.3	4.3

4. 高齢者の人権について

(1) 高齢者の人権問題

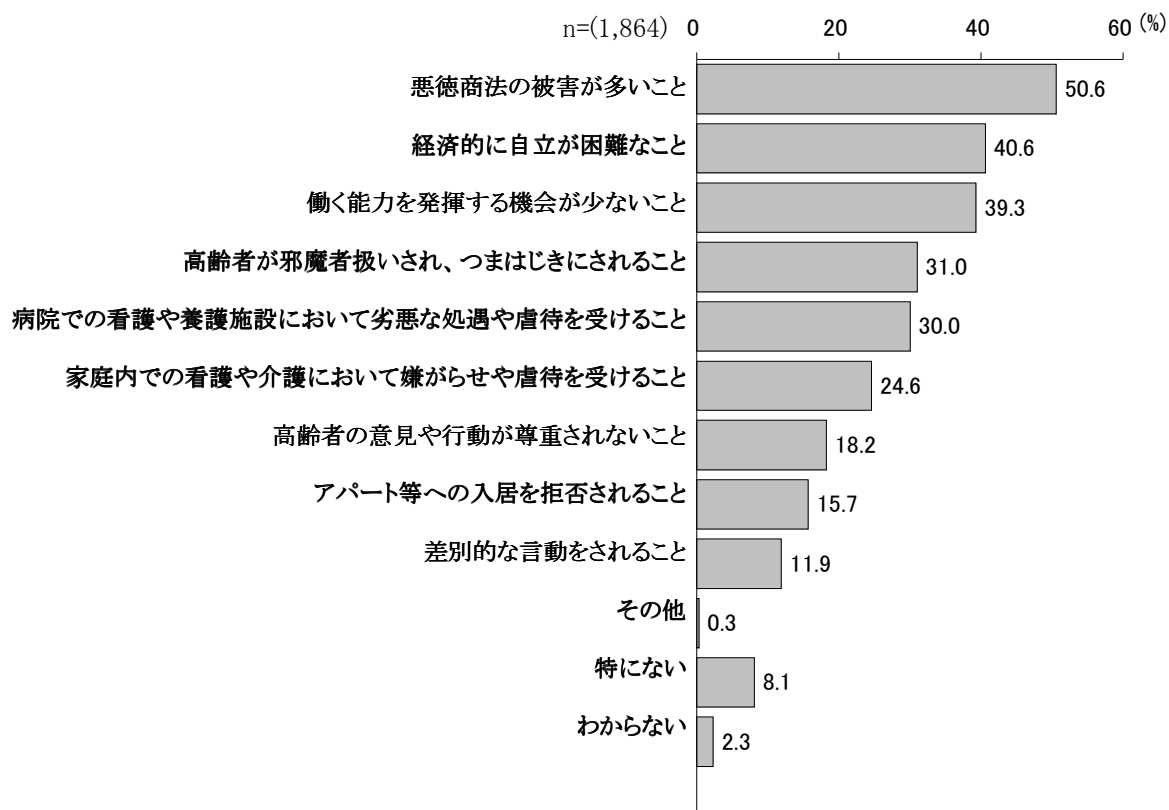
Q14 あなたは、高齢者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

高齢者の人権問題について尋ねたところ、「悪徳商法、特殊詐欺（振込め詐欺等）の被害が多いこと」が67.6%で最も高く、次いで「働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が52.5%、「経済的に自立が困難なこと」が47.9%などとなっている。



参考 内閣府 高齢者に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査における高齢者に関する人権問題では、「悪徳商法の被害が多いこと」が50.6%で最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」が40.6%、「働く能力を発揮する機会が少ないこと」が39.3%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、すべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「病院での看護や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」、「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」は、10ポイント以上の差となっている。

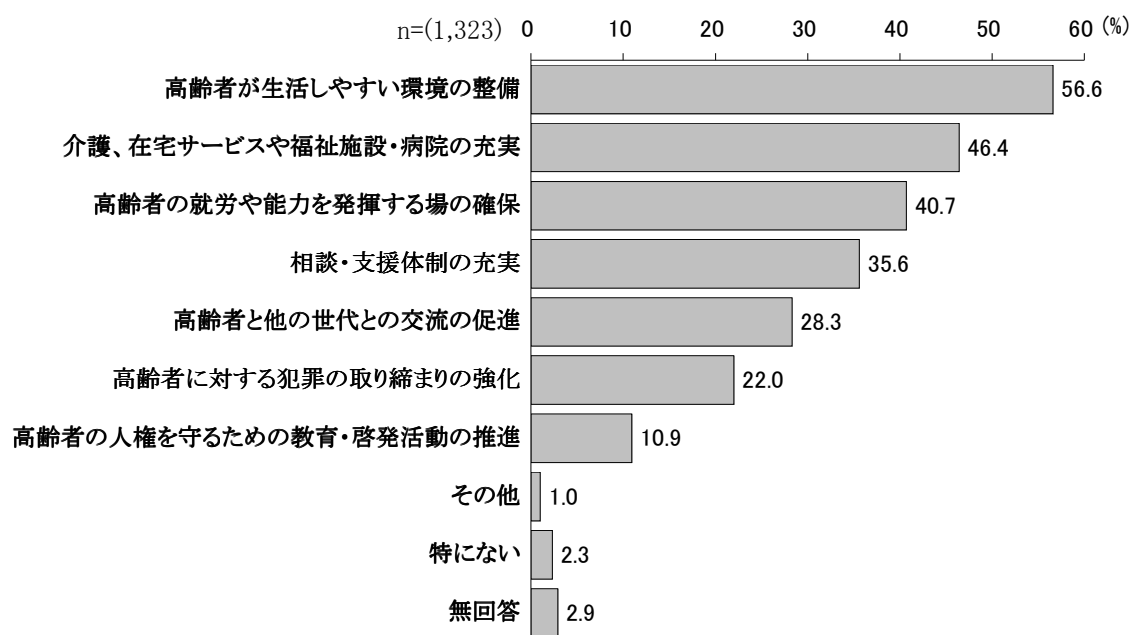
年代別では、「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。一方、「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	悪徳商法、特殊詐欺（振込め詐欺等）の被害が多いこと	働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと	経済的に自立が困難なこと	高齢者が邪魔者扱いされ、つまはじきにされること	病院での看護や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること	アパート等への入居を拒否されること	家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること	高齢者の意見や行動が尊重されないこと	誤った認識や偏見が存在していること	差別的な言動をされること	その他	特になし	無回答
全体	1,323	67.6	52.5	47.9	31.1	30.5	20.7	20.4	20.0	15.7	11.4	1.9	3.3	1.4
性別														
男性	586	64.2	51.4	44.2	30.9	23.7	15.4	13.8	18.3	15.2	9.2	1.7	4.1	1.2
女性	722	70.6	53.7	50.8	31.6	36.6	24.9	25.8	21.5	16.3	13.4	2.1	2.6	1.5
年齢別														
19歳以下	16	81.3	31.3	31.3	43.8	12.5	6.3	25.0	18.8	18.8	25.0	-	-	-
20～29歳	71	56.3	45.1	26.8	33.8	32.4	8.5	23.9	11.3	15.5	12.7	1.4	7.0	1.4
30～39歳	165	63.0	50.9	43.6	32.1	33.9	12.1	21.8	10.9	13.9	7.9	1.2	3.0	0.6
40～49歳	235	62.1	52.8	41.7	28.9	30.6	20.0	22.6	12.8	10.2	6.8	2.6	5.1	1.3
50～59歳	231	75.3	56.3	56.7	33.8	38.1	25.5	24.7	17.3	13.4	13.0	2.6	0.4	0.9
60～69歳	284	67.3	57.7	54.2	31.3	30.6	26.4	17.6	25.0	17.6	12.3	1.8	3.2	1.1
70～79歳	217	73.3	52.5	49.3	30.9	28.1	21.7	16.6	26.7	21.2	12.4	1.8	1.8	1.4
80歳以上	94	63.8	41.5	45.7	24.5	14.9	16.0	13.8	37.2	21.3	18.1	1.1	7.4	6.4

(2) 高齢者の人権擁護

Q15 あなたは、高齢者の人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

高齢者の人権擁護のために必要なことは、「高齢者が生活しやすい環境の整備」が56.6%で最も高く、次いで「介護、在宅サービスや福祉施設・病院の充実」が46.4%、「高齢者の就労や能力を発揮する場の確保」が40.7%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、「介護、在宅サービスや福祉施設・病院の充実」は、女性（54.0％）のほうが男性（37.4％）より16.6ポイント高くなっている。

年代別では、「介護、在宅サービスや福祉施設・病院の充実」は、60～69歳（53.5％）で最も高くなっている。また、「高齢者の人権を守るための教育・啓発活動の推進」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。

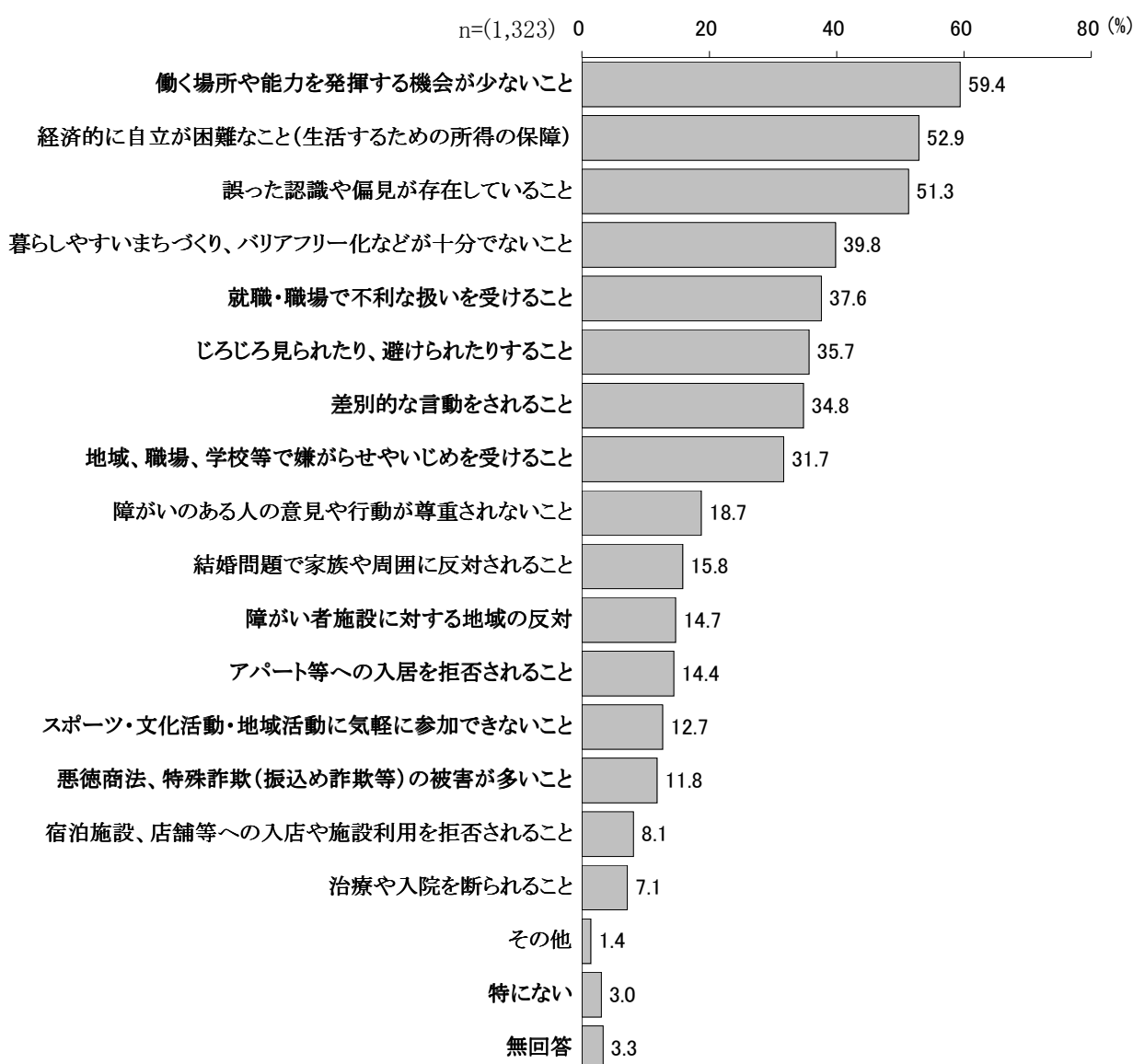
	調査数	高齢者が生活しやすい環境の整備	介護、在宅サービスや福祉施設・病院の充実	高齢者の就労や能力を發揮する場の確保	相談・支援体制の充実	高齢者和其他の世代との交流の促進	高齢者に対する犯罪の取り締まりの強化	高齢者の人権を守るための教育・啓発活動の推進	その他	特にない	無回答
全体	1,323	56.6	46.4	40.7	35.6	28.3	22.0	10.9	1.0	2.3	2.9
性別											
男性	586	55.6	37.4	42.3	35.3	27.1	20.1	12.6	0.9	2.9	3.1
女性	722	57.8	54.0	39.5	36.0	28.9	23.5	9.6	1.0	1.8	2.5
年齢別											
19歳以下	16	50.0	43.8	25.0	37.5	18.8	18.8	25.0	-	-	-
20～29歳	71	47.9	36.6	38.0	29.6	31.0	22.5	8.5	1.4	2.8	1.4
30～39歳	165	52.7	43.6	46.1	33.3	30.3	20.0	7.9	0.6	4.2	1.8
40～49歳	235	51.9	44.3	48.9	33.6	28.5	20.9	8.5	1.3	2.6	1.7
50～59歳	231	61.5	49.4	46.3	36.4	29.4	25.1	9.5	1.3	0.9	0.4
60～69歳	284	59.2	53.5	44.4	36.3	28.2	21.1	10.9	0.7	1.1	2.8
70～79歳	217	60.4	43.3	25.8	38.7	28.6	23.0	12.4	0.9	1.4	6.5
80歳以上	94	56.4	43.6	24.5	38.3	18.1	20.2	20.2	-	7.4	7.4

5. 障がいのある人の人権について

(1) 障がいのある人の人権問題

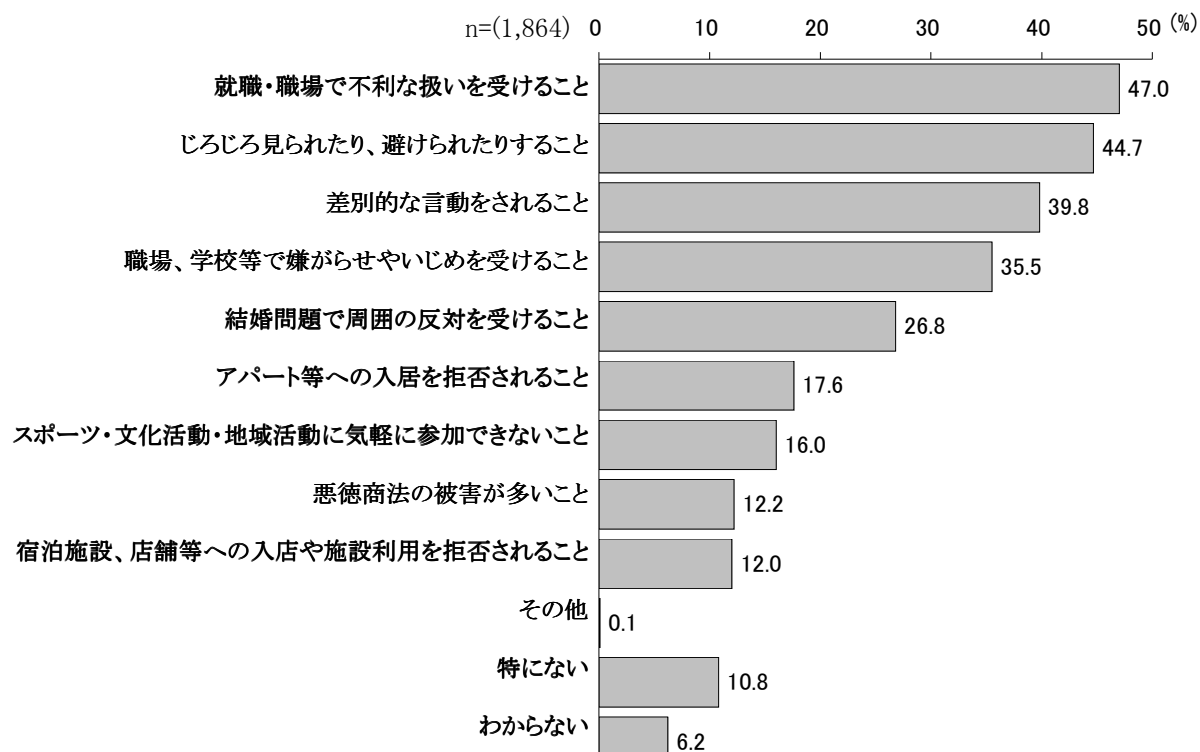
Q16 あなたは、障がいのある人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

障がいのある人の人権問題について尋ねたところ、「働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が59.4%で最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと（生活するための所得の保障）」が52.9%、「誤った認識や偏見が存在していること」が51.3%などとなっている。



参考 内閣府 障がい者に関する人権問題

内閣府調査における障がい者に関する人権問題では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が47.0%で最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が44.7%、「差別的な言動をされること」が39.8%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「障がい者施設に対する地域の反対」、「悪徳商法、特殊詐欺（振込め詐欺等）の被害が多いこと」以外のすべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「暮らしやすいまちづくり、バリアフリー化などが十分でないこと」は、10.6ポイント差となっている。

年代別では、「誤った認識や偏見が存在していること」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。一方、「障がい者施設に対する地域の反対」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。

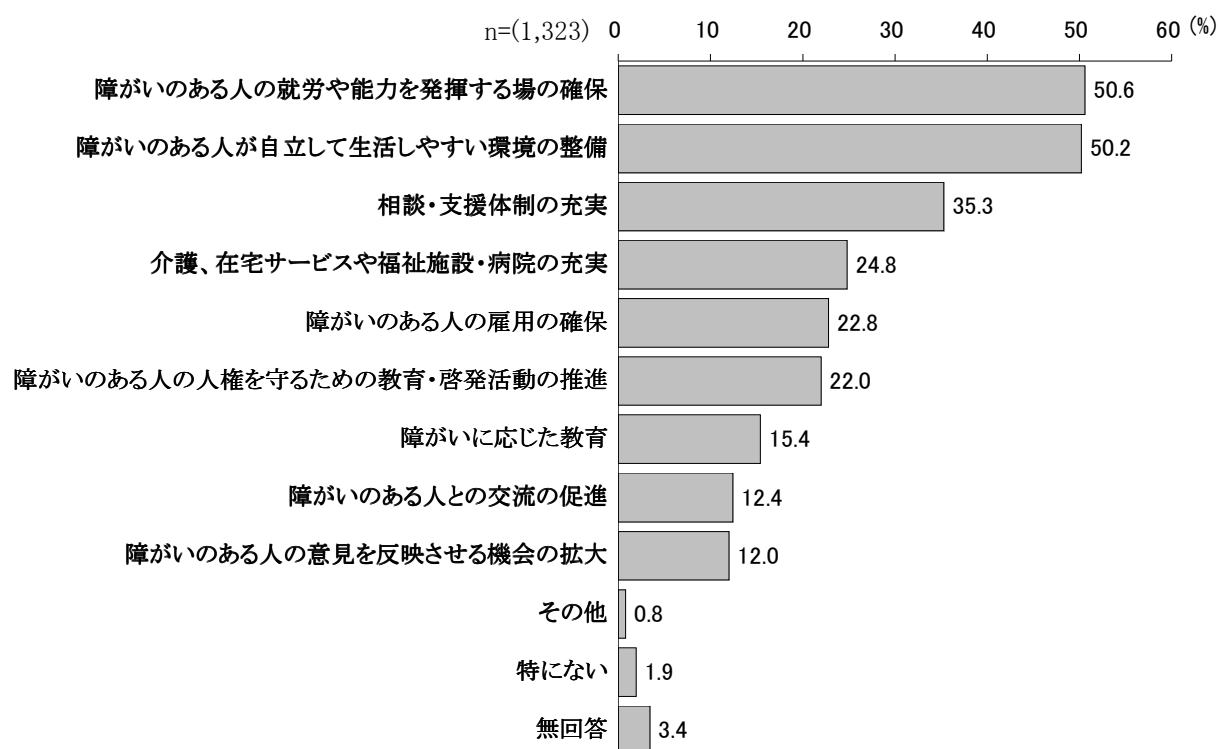
	調査数	働く場所や能力を發揮する機会が少ないこと	経済的に自立が困難なこと（生活するための所得の保障）	誤った認識や偏見が存在していること	暮らしやすいまちづくり、バリアフリー化などが十分でないこと	就職・職場で不利な扱いを受けること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	差別的な言動をされること	地域、職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと
全体	1,323	59.4	52.9	51.3	39.8	37.6	35.7	34.8	31.7	18.7
性別										
男性	586	58.7	48.8	46.6	34.1	37.2	31.7	33.6	28.7	15.2
女性	722	60.0	56.5	55.3	44.7	38.0	39.3	36.1	34.2	21.9
年齢別										
19歳以下	16	43.8	18.8	68.8	12.5	31.3	68.8	56.3	56.3	25.0
20～29歳	71	50.7	32.4	54.9	31.0	32.4	52.1	45.1	36.6	23.9
30～39歳	165	55.2	53.9	61.8	36.4	34.5	49.1	44.8	38.2	21.8
40～49歳	235	60.9	52.8	58.7	39.1	35.7	37.4	33.2	35.3	16.2
50～59歳	231	61.0	60.2	57.6	44.6	41.6	39.0	41.1	31.6	17.7
60～69歳	284	61.6	56.7	47.2	42.3	42.6	33.1	32.0	26.8	16.5
70～79歳	217	59.9	53.5	42.9	41.0	36.4	23.5	27.6	29.5	23.0
80歳以上	94	58.5	40.4	24.5	38.3	28.7	19.1	20.2	23.4	13.8

	調査数	結婚問題で家族や周囲に反対されること	障がい者施設に対する地域の反対	アパート等への入居を拒否されること	できないこと	スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと	悪徳商法、特殊詐欺（振込め詐欺等）の被害が多いこと	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	治療や入院を断られること	その他	特になし	無回答
全体	1,323	15.8	14.7	14.4	12.7	11.8	8.1	7.1	1.4	3.0	3.3	
性別												
男性	586	12.8	15.5	12.8	11.4	13.5	7.0	6.8	0.7	3.9	3.1	
女性	722	18.4	14.0	15.7	13.9	10.7	9.0	7.5	1.9	2.2	3.2	
年齢別												
19歳以下	16	25.0	-	12.5	12.5	18.8	6.3	6.3	-	6.3	-	
20～29歳	71	12.7	9.9	5.6	11.3	5.6	7.0	4.2	2.8	1.4	1.4	
30～39歳	165	15.8	6.1	10.3	7.3	9.1	7.9	4.2	0.6	1.2	0.6	
40～49歳	235	16.6	9.4	13.6	11.1	11.1	8.9	8.5	-	1.7	1.3	
50～59歳	231	18.6	13.9	16.9	12.1	10.4	10.0	7.8	2.6	2.2	0.4	
60～69歳	284	14.4	17.6	15.1	14.1	9.2	7.4	4.9	1.4	3.9	3.9	
70～79歳	217	14.3	22.6	17.5	16.1	18.4	7.8	10.6	1.8	1.8	7.4	
80歳以上	94	16.0	23.4	13.8	17.0	19.1	6.4	8.5	1.1	11.7	10.6	

(2) 障がいのある人の人権擁護

Q17 あなたは、障がいのある人の人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

障がいのある人の人権擁護のために必要なことは、「障がいのある人の就労や能力を発揮する場の確保」が50.6%で最も高く、次いで「障がいのある人が自立して生活しやすい環境の整備」が50.2%、「相談・支援体制の充実」が35.3%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「障がいのある人が自立して生活しやすい環境の整備」は、女性（53.5%）のほうが男性（46.2%）より7.3ポイント高くなっている。

年代別では、「相談・支援体制の充実」は70～79歳（47.0%）で最も高くなっている。また、「障がいに応じた教育」、「障がいのある人との交流の促進」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	障がいのある人の就労や能力を発揮する場の確保	障がいのある人が自立して生活しやすい環境の整備	相談・支援体制の充実	介護、在宅サービスや福祉施設・病院の充実	障がいのある人の雇用の確保	障がいのある人の人権を守るための教育・啓発活動の推進	障がいに応じた教育	障がいのある人との交流の促進	障がいのある人の意見を反映させる機会の拡大	その他	特にない	無回答
全体	1,323	50.6	50.2	35.3	24.8	22.8	22.0	15.4	12.4	12.0	0.8	1.9	3.4
性別													
男性	586	51.9	46.2	36.7	23.0	22.9	21.8	11.8	13.7	11.1	0.7	2.4	3.4
女性	722	49.9	53.5	34.6	26.3	22.3	22.3	18.4	11.5	12.9	0.8	1.4	3.2
年齢別													
19歳以下	16	37.5	25.0	37.5	31.3	25.0	25.0	37.5	18.8	12.5	-	-	-
20～29歳	71	40.8	42.3	32.4	23.9	18.3	19.7	25.4	18.3	14.1	2.8	1.4	1.4
30～39歳	165	49.7	47.3	26.7	21.8	27.9	23.0	21.8	17.0	9.7	0.6	1.2	1.8
40～49歳	235	54.5	52.8	31.5	23.4	18.3	23.4	18.3	17.4	8.5	-	1.7	1.3
50～59歳	231	55.0	54.1	29.9	23.4	23.4	27.3	17.3	13.9	11.7	2.2	2.2	0.4
60～69歳	284	55.3	55.6	37.0	23.6	26.8	20.1	9.5	11.6	12.0	0.4	1.4	4.2
70～79歳	217	46.1	47.0	47.0	29.5	22.1	20.7	9.2	4.6	16.6	0.5	0.5	6.9
80歳以上	94	41.5	39.4	44.7	28.7	11.7	13.8	12.8	3.2	13.8	-	7.4	10.6

6. 同和問題（部落差別）について

（1）知識の提供者

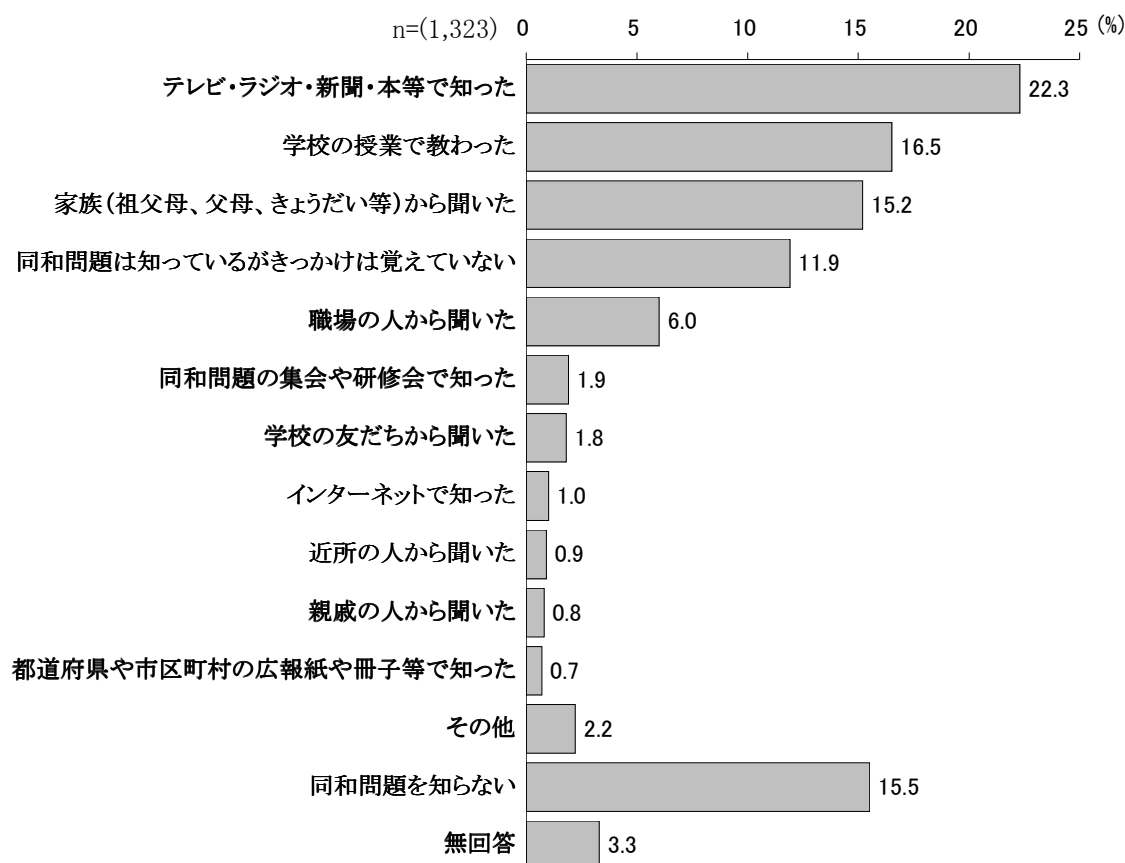
Q18 あなたは、同和問題<注②>について、初めて知ったきっかけは、何からですか。（該当するもの1つに「○」）

<注②>同和問題

日本社会の歴史過程で形成された身分制や差別観念により、同和地区（被差別部落）に生まれた人々と、その子孫たちがその地域の出身という理由だけで、前近代から現在に至るまで、不当に差別され、基本的人権を侵害されるなど、日本社会に深く根ざした人権問題です。

同和問題について初めて知ったきっかけは、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」が22.3%で最も高く、次いで「学校の授業で教わった」が16.5%、「家族（祖父母、父母、きょうだい等）から聞いた」が15.2%などとなっている。

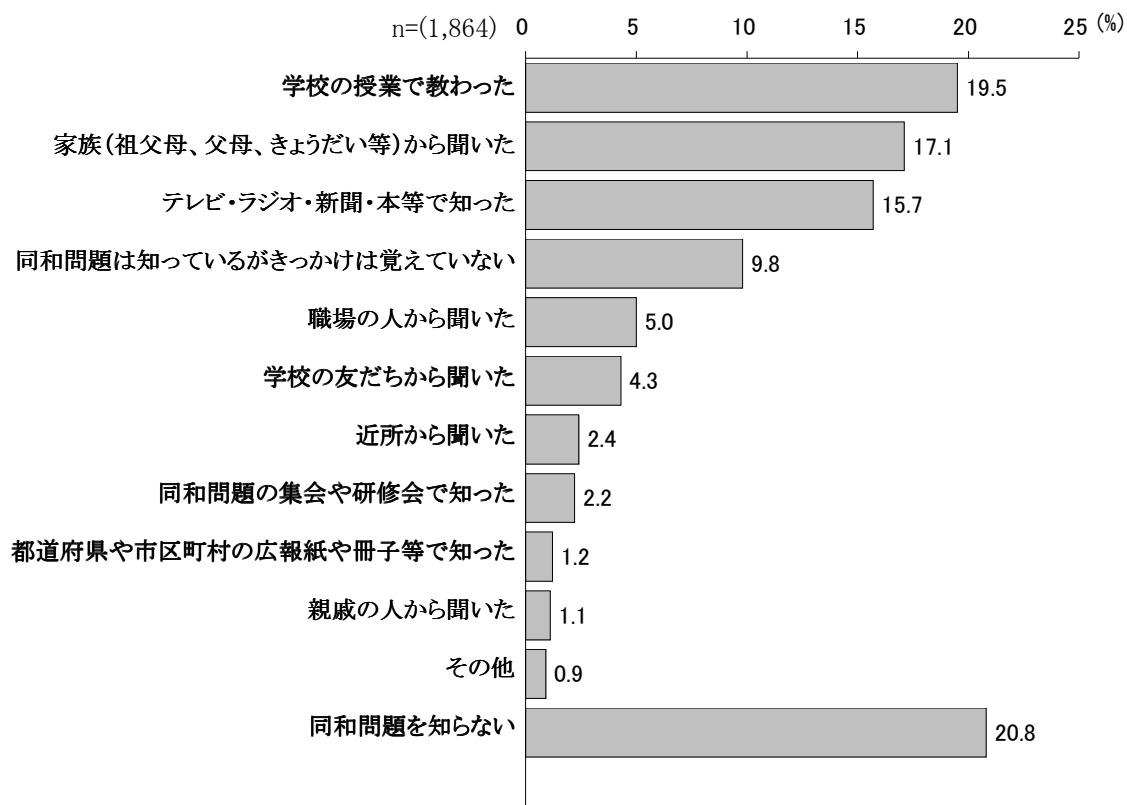
一方、「同和問題を知らない」は、15.5%となっている。



参考 内閣府 同和問題を知ったきっかけ

内閣府調査における同和問題を知ったきっかけでは、「学校の授業で教わった」が19.5%で最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、きょうだい等）から聞いた」が17.1%、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」が15.7%などとなっている。

一方、「同和問題を知らない」は20.8%となっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、「学校の授業で教わった」は、女性（19.7%）のほうが男性（12.8%）より6.9ポイント高くなっている。一方、「職場の人から聞いた」は、男性（9.6%）のほうが女性（3.2%）より6.4ポイント高くなっている。

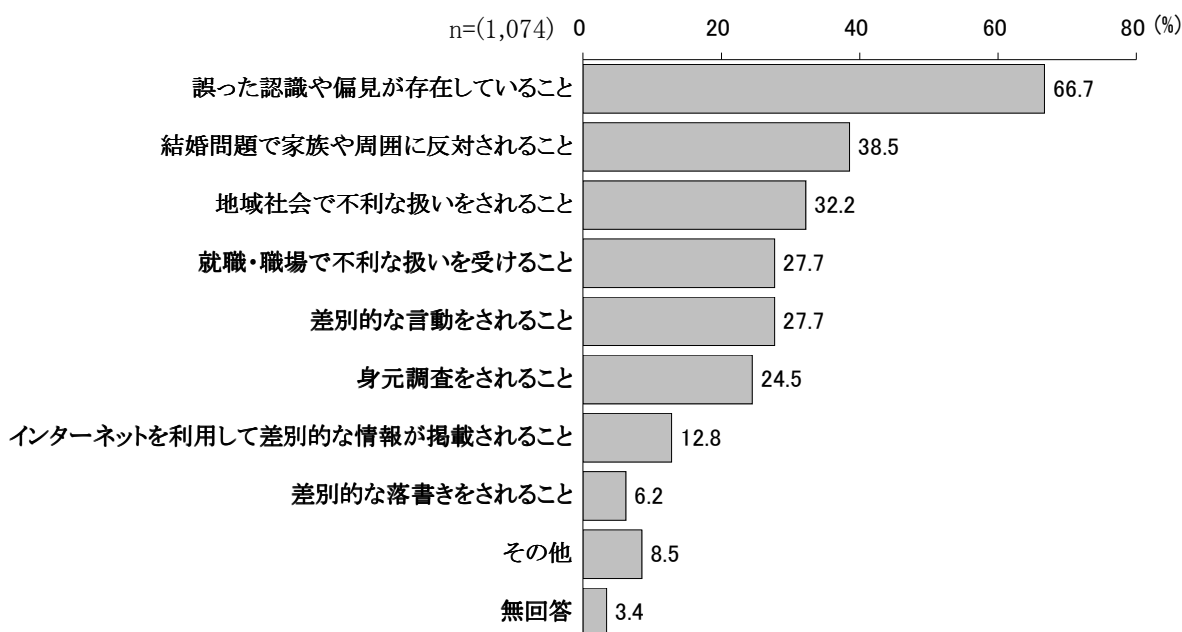
年代別では、「学校の授業で教わった」は、年代が下がるにつれて高くなっている。また、「同和問題を知らない」も年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	学校の授業で教わった	家族（祖父母、父母、きょうだい等）から聞いた	同和問題は知っているがきっかけは覚えていない	職場の人から聞いた	同和問題の集会や研修会で知った	学校の友だちから聞いた	インターネットで知った	近所の人から聞いた	親戚の人から聞いた	都道府県や市区町村の広報紙や冊子等で知った	その他	同和問題を知らない	無回答
全体	1,323	22.3	16.5	15.2	11.9	6.0	1.9	1.8	1.0	0.9	0.8	0.7	2.2	15.5	3.3
性別															
男性	586	23.9	12.8	12.6	13.5	9.6	2.6	1.4	1.7	1.0	0.5	0.7	2.2	14.0	3.6
女性	722	21.1	19.7	17.2	10.7	3.2	1.4	2.2	0.4	0.8	1.0	0.7	2.2	16.8	2.8
年齢別															
19歳以下	16	12.5	43.8	6.3	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-
20～29歳	71	11.3	38.0	5.6	5.6	1.4	1.4	1.4	4.2	-	-	-	-	29.6	1.4
30～39歳	165	15.8	29.7	14.5	4.8	2.4	0.6	1.8	3.6	0.6	0.6	-	1.8	22.4	1.2
40～49歳	235	18.3	27.2	13.6	8.1	5.5	1.3	1.7	0.9	-	0.9	-	1.7	19.6	1.3
50～59歳	231	22.1	15.6	18.2	13.4	6.1	2.6	2.6	0.9	1.3	-	0.4	2.6	13.9	0.4
60～69歳	284	28.9	8.8	15.1	10.9	10.6	2.5	2.1	-	1.1	0.7	1.4	3.2	11.3	3.5
70～79歳	217	27.2	3.7	17.5	18.4	5.1	2.3	1.8	-	2.3	1.4	1.8	2.3	10.1	6.0
80歳以上	94	23.4	1.1	16.0	22.3	6.4	2.1	-	-	-	2.1	-	2.1	10.6	13.8

(2) 同和問題の人権問題

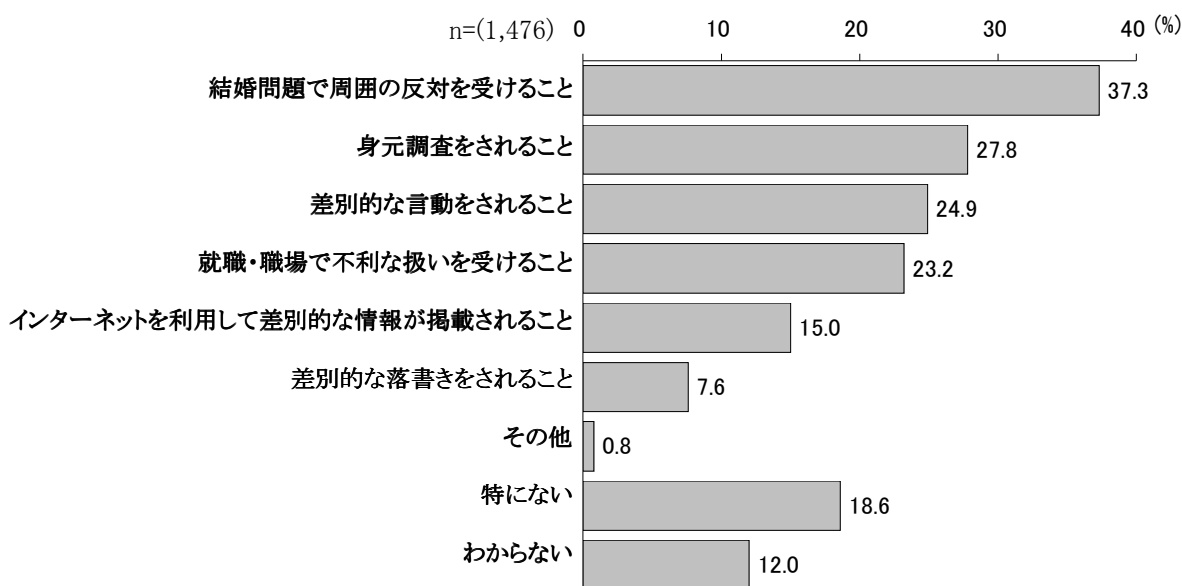
Q19 あなたは、同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(該当するものすべてに「○」)

同和問題を知っている方に、同和問題の人権問題について尋ねたところ、「誤った認識や偏見が存在していること」が66.7%で最も高く、次いで「結婚問題で家族や周囲に反対されること」が38.5%、「地域社会で不利な扱いをされること」が32.2%などとなっている。



参考 内閣府 同和問題に関する人権問題 (複数回答)

内閣府調査における同和問題に関する人権問題では、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が37.3%で最も高く、次いで「身元調査をされること」が27.8%、「差別的な言動をされること」が24.9%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、すべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「結婚問題で家族や周囲に反対されること」（女性43.0%、男性33.1%）は、9.9ポイント差となっている。

年代別では、「地域社会で不利な扱いをされること」は、80歳以上（19.7%）で他の年代に比べて低くなっている。

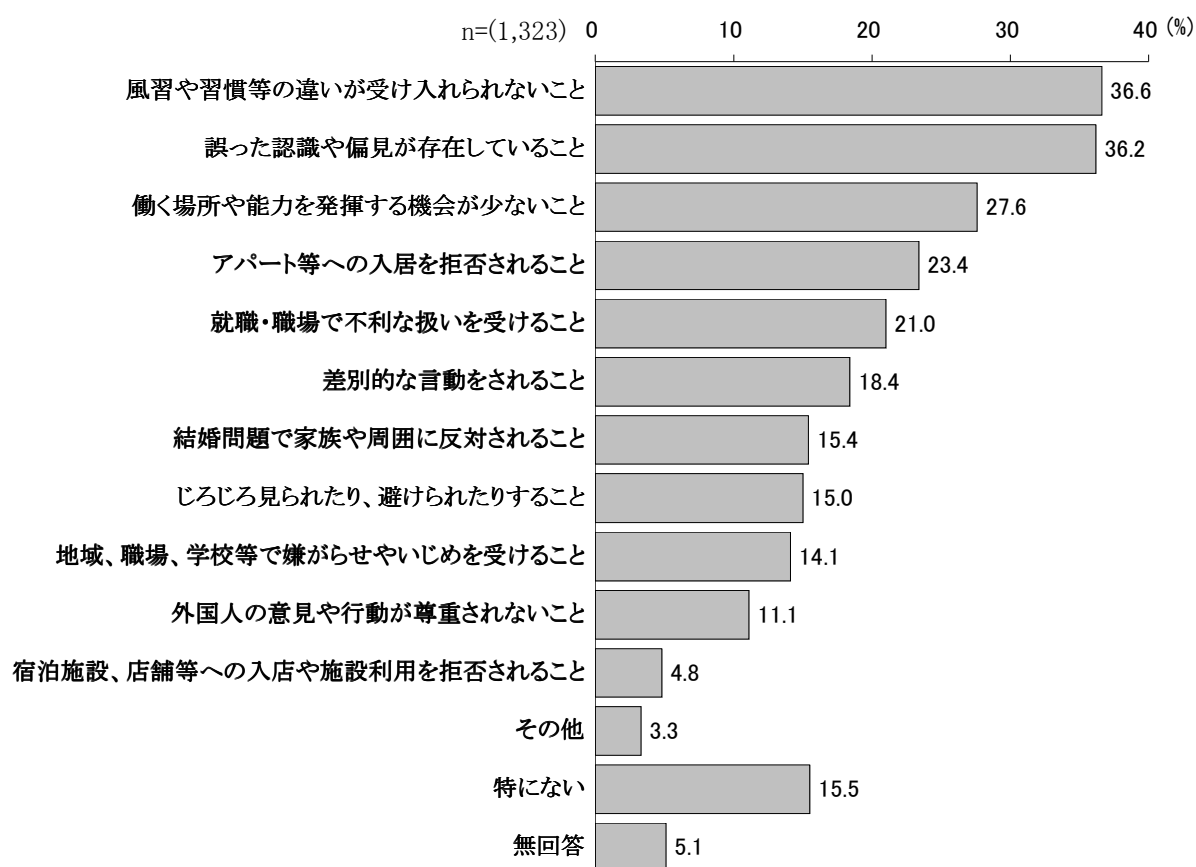
	調査数	誤った認識や偏見が存在していること	結婚問題で家族や周囲に反対されること	地域社会で不利な扱いをされること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	身元調査をされること	インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること	差別的な落書きをされること	その他	無回答
全体	1,074	66.7	38.5	32.2	27.7	27.7	24.5	12.8	6.2	8.5	3.4
性別											
男性	483	65.6	33.1	31.7	23.0	26.1	20.7	9.9	6.0	8.3	2.9
女性	581	67.3	43.0	33.0	31.7	29.6	27.5	15.3	6.5	8.8	3.6
年齢別											
19歳以下	12	58.3	33.3	33.3	16.7	33.3	33.3	16.7	8.3	8.3	-
20～29歳	49	55.1	34.7	30.6	32.7	36.7	20.4	16.3	6.1	8.2	4.1
30～39歳	126	54.8	31.7	31.0	21.4	27.0	27.8	16.7	5.6	11.1	0.8
40～49歳	186	62.9	39.2	36.6	30.6	32.3	24.2	17.2	8.6	7.5	3.8
50～59歳	198	69.7	44.4	34.3	29.8	32.8	26.3	11.6	8.1	6.6	2.5
60～69歳	242	72.7	39.7	32.6	26.4	27.7	24.4	11.2	5.0	8.3	2.5
70～79歳	182	70.3	34.1	31.9	25.3	18.1	21.4	10.4	4.9	9.3	4.4
80歳以上	71	67.6	42.3	19.7	33.8	23.9	23.9	7.0	4.2	11.3	8.5

7. 外国人の人権について

(1) 外国人の人権問題

Q20 あなたは、外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

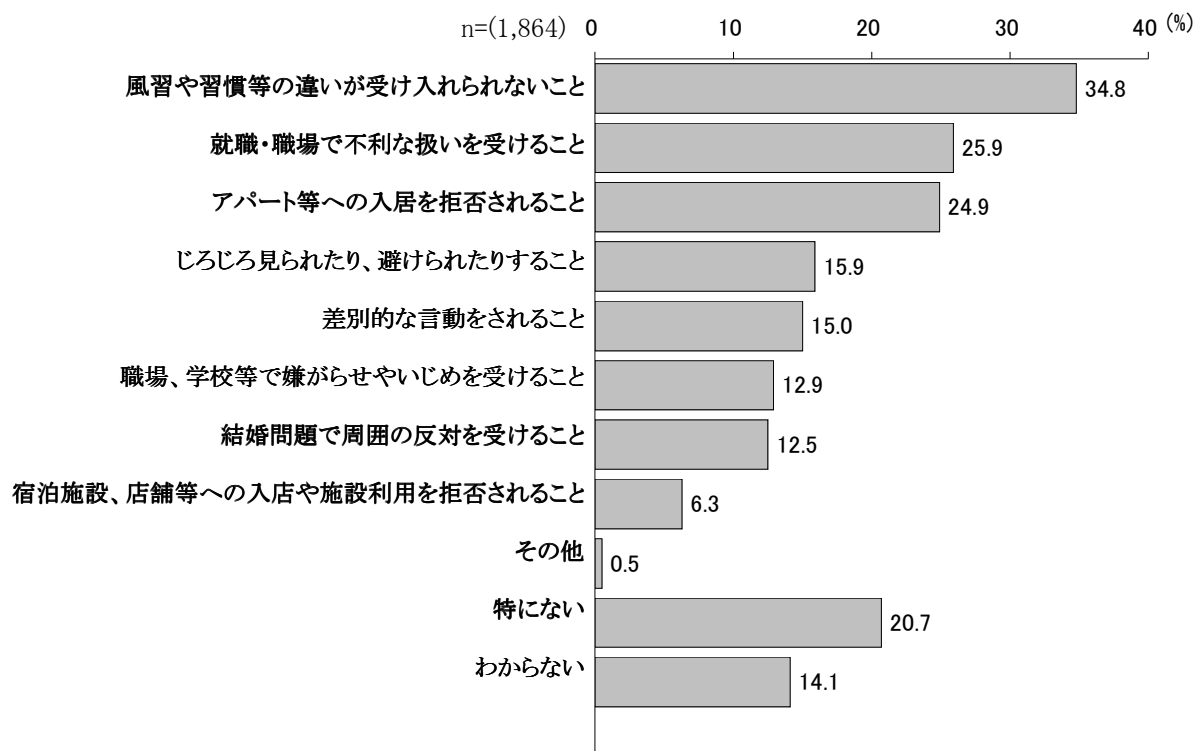
外国人の人権問題について尋ねたところ、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が36.6%で最も高く、次いで「誤った認識や偏見が存在していること」が36.2%、「働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと」が27.6%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

参考 内閣府 外国人に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査における外国人に関する人権問題では、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が34.8%で最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が25.9%、「アパート等への入居を拒否されること」が24.9%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「誤った認識や偏見が存在していること」、「宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること」以外のすべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「アパート等への入居を拒否されること」（女性26.2%、男性20.1%）は、6.1ポイント差となっている。

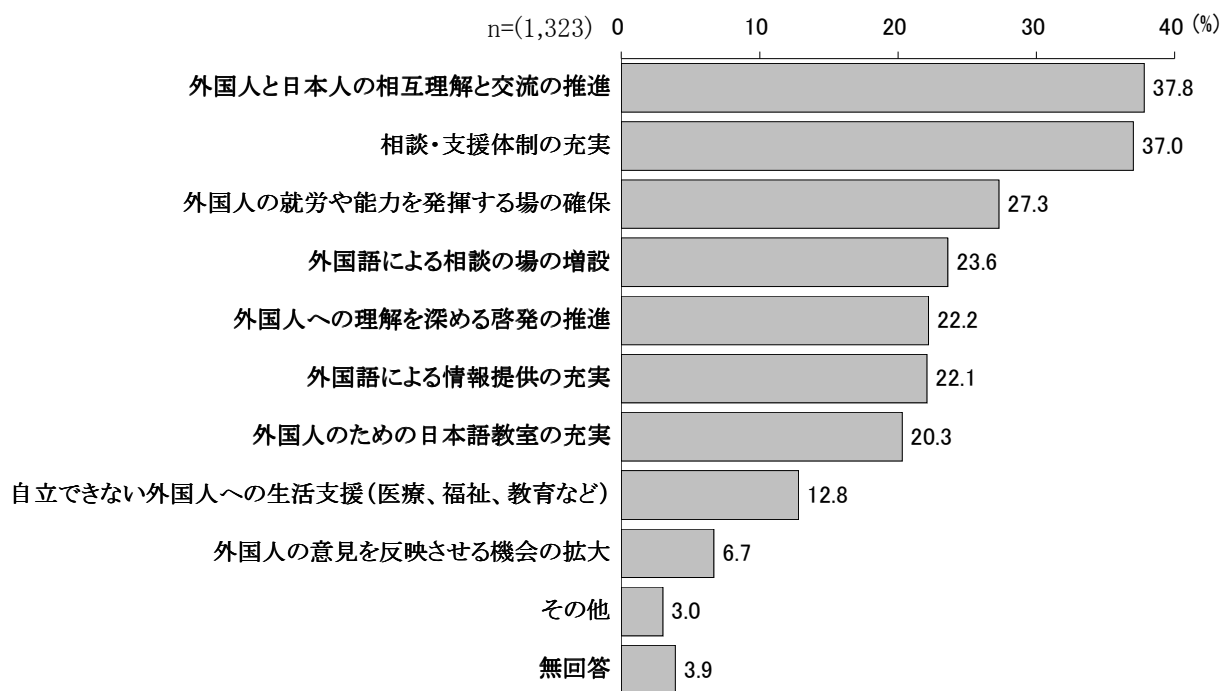
年代別では、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」は、50～59歳（47.2%）で最も高くなっている。

	調査数	風習や習慣等の違いが受け入れられないこと	誤った認識や偏見が存在していること	働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと	アパート等への入居を拒否されること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	結婚問題で家族や周囲に反対されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	地域、職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	外国人の意見や行動が尊重されないこと	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	36.6	36.2	27.6	23.4	21.0	18.4	15.4	15.0	14.1	11.1	4.8	3.3	15.5	5.1
性別															
男性	586	36.2	37.9	24.6	20.1	20.8	18.1	13.3	13.5	11.8	10.1	5.1	3.6	15.5	5.5
女性	722	37.5	35.3	29.8	26.2	21.3	19.1	17.5	16.6	16.3	12.2	4.4	2.9	15.2	4.6
年齢別															
19歳以下	16	37.5	31.3	25.0	-	18.8	18.8	25.0	25.0	12.5	12.5	-	-	6.3	6.3
20～29歳	71	39.4	35.2	16.9	18.3	19.7	25.4	25.4	16.9	14.1	15.5	8.5	4.2	14.1	1.4
30～39歳	165	38.8	33.3	27.3	23.6	21.2	23.6	17.0	12.7	18.8	13.9	3.0	1.2	14.5	-
40～49歳	235	37.0	39.6	24.3	27.2	23.4	21.3	13.6	16.2	17.4	11.1	3.8	1.3	15.7	2.1
50～59歳	231	47.2	35.5	28.6	26.8	20.3	16.9	13.9	15.2	12.1	10.4	5.6	3.5	12.6	3.0
60～69歳	284	33.1	34.9	27.1	22.9	19.0	17.6	14.1	17.6	11.3	7.7	6.0	3.5	19.7	5.3
70～79歳	217	32.7	41.5	32.7	19.8	23.0	14.3	15.7	12.4	13.8	10.6	3.7	3.7	12.0	10.6
80歳以上	94	25.5	29.8	30.9	22.3	19.1	14.9	17.0	12.8	13.8	17.0	4.3	7.4	21.3	16.0

(2) 外国人の人権擁護

Q21 あなたは、外国人の人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

外国人の人権擁護のために必要なことは、「外国人と日本人の相互理解と交流の推進」が37.8%で最も高く、次いで「相談・支援体制の充実」が37.0%、「外国人の就労や能力を發揮する場の確保」が27.3%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「外国人への理解を深める啓発の推進」は、男性（25.8%）のほうが女性（19.4%）より6.4ポイント高くなっている。一方、「外国語による情報提供の充実」は、女性（26.5%）のほうが男性（17.2%）より9.3ポイント高くなっている。

年代別では、「外国人と日本人の相互理解と交流の推進」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。一方、「相談・支援体制の充実」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	外国人と日本人の相互理解と交流の推進	相談・支援体制の充実	外国人の就労や能力を発揮する場の確保	外国語による相談の場の増設	外国人への理解を深める啓発の推進	外国語による情報提供の充実	外国人のための日本語教室の充実	自立できない外国人への生活支援（医療、福祉、教育など）	外国人の意見を反映させる機会の拡大	その他	無回答
全体	1,323	37.8	37.0	27.3	23.6	22.2	22.1	20.3	12.8	6.7	3.0	3.9
性別												
男性	586	39.9	37.7	27.6	20.0	25.8	17.2	19.1	11.8	6.8	3.6	3.4
女性	722	36.3	36.6	27.0	26.9	19.4	26.5	20.9	13.4	6.8	2.6	3.9
年齢別												
19歳以下	16	62.5	25.0	25.0	18.8	18.8	6.3	31.3	6.3	-	-	-
20～29歳	71	46.5	29.6	19.7	26.8	29.6	19.7	21.1	16.9	1.4	1.4	2.8
30～39歳	165	40.0	27.3	26.1	20.6	19.4	27.9	18.8	9.7	6.1	4.8	3.0
40～49歳	235	38.3	34.9	24.3	28.5	22.6	23.0	14.9	14.5	6.4	3.0	1.7
50～59歳	231	40.7	33.3	24.2	29.0	21.6	24.2	21.2	11.3	4.3	4.3	3.5
60～69歳	284	37.0	37.3	31.3	19.7	21.5	21.5	21.5	11.3	7.7	2.5	3.9
70～79歳	217	31.8	49.3	28.6	22.6	23.5	18.9	24.0	16.6	10.6	2.3	4.1
80歳以上	94	31.9	47.9	35.1	17.0	23.4	20.2	17.0	9.6	8.5	2.1	10.6